

厚 生 労 働 大 臣 殿

開設者名 学校法人聖路加国際大学
理事長 佐々木 新一

聖路加国際病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

| | |
|----|--------------------------|
| 住所 | 〒104-0044 東京都中央区明石町10番1号 |
| 氏名 | 学校法人聖路加国際大学 理事長 佐々木 新一 |

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

| |
|---------|
| 聖路加国際病院 |
|---------|

3 所在の場所

| |
|-------------------------|
| 〒104-8560 東京都中央区明石町9番1号 |
| 電話(03) 3541 - 5151 |

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

| | |
|-----------------------|---|
| <input type="radio"/> | 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 |
| <input type="radio"/> | 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜 |

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

| | | | | | | | |
|---|--------|-----------------------|----------------------|-----------------------|--------|-----------------------|---------|
| 内科 | | | | 有 | | | |
| 内科と組み合わせた診療科名等 | | | | | | | |
| <input type="radio"/> | 1呼吸器内科 | <input type="radio"/> | 2消化器内科 | <input type="radio"/> | 3循環器内科 | <input type="radio"/> | 4腎臓内科 |
| <input type="radio"/> | 5神経内科 | <input type="radio"/> | 6血液内科 | <input type="radio"/> | 7内分泌内科 | <input type="radio"/> | 8代謝内科 |
| <input type="radio"/> | 9感染症内科 | | 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科 | | | | 11リウマチ科 |
| 診療実績 | | | | | | | |
| ・上記10,11については、内科において「アレルギー・膠原病科」を設置し、診療を行っている | | | | | | | |

1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。

(注) 2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

| | | | | | | | |
|---------------|--------|---|---------|---|--------|---|-------|
| 外科 | | | | | | 有 | |
| 外科と組み合わせた診療科名 | | | | | | | |
| ○ | 1呼吸器外科 | ○ | 2消化器外科 | ○ | 3乳腺外科 | | 4心臓外科 |
| | 5血管外科 | ○ | 6心臓血管外科 | ○ | 7内分泌外科 | ○ | 8小児外科 |
| 診療実績 | | | | | | | |
| | | | | | | | |

1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。

(注) 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

| | | | | | | | |
|---|----------|---|----------|---|---------|---|--------|
| ○ | 1精神科 | ○ | 2小児科 | ○ | 3整形外科 | ○ | 4脳神経外科 |
| ○ | 5皮膚科 | ○ | 6泌尿器科 | ○ | 7産婦人科 | | 8産科 |
| | 9婦人科 | ○ | 10眼科 | ○ | 11耳鼻咽喉科 | ○ | 12放射線科 |
| | 13放射線診断科 | | 14放射線治療科 | ○ | 15麻酔科 | ○ | 16救急科 |

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

| | | | | | | | |
|---------------|-------|--|-------|---|---------|--|--|
| 歯科 | | | | | | | |
| 歯科と組み合わせた診療科名 | | | | | | | |
| | 1小児歯科 | | 2矯正歯科 | ○ | 3歯科口腔外科 | | |
| 歯科の診療体制 | | | | | | | |
| | | | | | | | |

1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

| | | | | | | | | | |
|----|-------|----|------|----|--------|----|------|----|-------|
| 1 | 心療内科 | 2 | 腫瘍内科 | 3 | 緩和ケア内科 | 4 | 形成外科 | 5 | 病理診断科 |
| 6 | 臨床検査科 | 7 | | 8 | | 9 | | 10 | |
| 11 | | 12 | | 13 | | 14 | | 15 | |
| 16 | | 17 | | 18 | | 19 | | 20 | |
| 21 | | 22 | | 23 | | 24 | | 25 | |

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

| | | | | | |
|----|-----|----|----|-----|-----|
| 精神 | 感染症 | 結核 | 療養 | 一般 | 合計 |
| | | | | 520 | 520 |

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

| 職種 | 常勤 | 非常勤 | 合計 |
|-------|-----|------|-------|
| 医師 | 391 | 16.2 | 407.2 |
| 歯科医師 | 6 | 0.6 | 6.6 |
| 薬剤師 | 56 | 3.8 | 59.8 |
| 保健師 | 0 | 0 | 0 |
| 助産師 | 58 | 0.8 | 58.8 |
| 看護師 | 798 | 24.3 | 822.3 |
| 准看護師 | 0 | 0 | 0 |
| 歯科衛生士 | 4 | 0 | 4 |
| 管理栄養士 | 14 | 1.4 | 15.4 |

| 職種 | 員数 |
|---------|----|
| 看護補助者 | 89 |
| 理学療法士 | 22 |
| 作業療法士 | 5 |
| 視能訓練士 | 9 |
| 義肢装具士 | 0 |
| 臨床工学士 | 36 |
| 栄養士 | 0 |
| 歯科技工士 | 1 |
| 診療放射線技師 | 55 |

| 職種 | 員数 | |
|-------------|--------|----|
| 診療エックス線技師 | 0 | |
| 臨床検査 | 臨床検査技師 | 96 |
| | 衛生検査技師 | 0 |
| | その他 | 0 |
| あん摩マッサージ指圧師 | 0 | |
| 医療社会事業従事者 | 6 | |
| その他の技術員 | 18 | |
| 事務職員 | 310 | |
| その他の職員 | 0 | |

- 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 (注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

| 専門医名 | 人数(人) | 専門医名 | 人数(人) |
|---------|-------|----------|-------|
| 総合内科専門医 | 34.5 | 眼科専門医 | 3.6 |
| 外科専門医 | 15.5 | 耳鼻咽喉科専門医 | 3 |
| 精神科専門医 | 1.6 | 放射線科専門医 | 6.6 |
| 小児科専門医 | 11.4 | 脳神経外科専門医 | 7 |
| 皮膚科専門医 | 3 | 整形外科専門医 | 6.2 |
| 泌尿器科専門医 | 9 | 麻酔科専門医 | 16.2 |
| 産婦人科専門医 | 13.7 | 救急科専門医 | 8 |
| | | 合計 | 139.3 |

- 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 (注) 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (石松 伸一) 任命年月日 令和 3 年 4 月 1 日

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・聖路加国際病院 2003～2009年セーフティマネジメント委員会(医療安全管理委員会)の委員としてインシデントの根本原因分析(RCA)の実施 ・聖路加国際病院 2002～2005年医療ガス委員会 委員長 ・聖路加国際病院 2010年～2020年救急・集中治療部門運営委員会委員長として急変WG活動から院内急変事例の減少を実現 ・2008年日本救急医学会 診療行為関連死の死因究明等の在り方検討特別委員会(有賀 徹委員長) 委員 ・聖路加国際病院 救急部部长、救命救急センター長、集中治療科部長としての医療安全管理の経験 |
|--|

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

| | 歯科等以外 | 歯科等 | 合計 |
|--------------|-----------|--------|-----------|
| 1日当たり平均入院患者数 | 370.1 人 | 0.4 人 | 370.5 人 |
| 1日当たり平均外来患者数 | 2,030.8 人 | 58.7 人 | 2,089.5 人 |
| 1日当たり平均調剤数 | 1,246.4 | | 剤 |
| 必要医師数 | 147.8 | | 人 |
| 必要歯科医師数 | 3 | | 人 |
| 必要薬剤師数 | 16 | | 人 |
| 必要(准)看護師数 | 265.3 | | 人 |

1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

(注) 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

| 施設名 | 床面積 | 主要構造 | 設備概要 | | |
|----------|--|------------|-----------------------------|---|--|
| 集中治療室 | 224.04 m ² | 鉄骨鉄筋コンクリート | 病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置 | 8 床 有 有 | 心電計 心細動除去装置 ペースメーカー 有 有 有 |
| 無菌病室等 | [固定式の場合] 床面積 21.8 m ² [移動式の場合] 台数 13 台 | | | 病床数 2 床 | |
| 医薬品情報管理室 | [専用室の場合] 床面積 78.23 m ² [共用室の場合] 共用する室名 | | | | |
| 化学検査室 | 230.9 m ² | 鉄骨鉄筋コンクリート | (主な設備) | 自動分析装置クリライザ、乾式臨床化学分析装置、全自動糖分析装置、自動グリコヘモグロビン分析計、浸透圧分析装置、分析前工程統合管理モジュール | |
| 細菌検査室 | 108.7 m ² | 鉄骨鉄筋コンクリート | (主な設備) | 全自動細菌同定検査装置、微生物感受性分析装置、全自動血液培養装置 | |
| 病理検査室 | 310.5 m ² | 鉄骨鉄筋コンクリート | (主な設備) | 自動染色装置、顕微鏡写真撮影装置、自動免疫染色装置、自動賦活装置、電子顕微鏡 | |
| 病理解剖室 | 42.11 m ² | 鉄骨鉄筋コンクリート | (主な設備) | 超低温フリーザー、臓器撮影装置、電動昇降式解剖台、電動解剖ノココントロールモジュール | |
| 研究室 | 825.1 m ² | 鉄骨鉄筋コンクリート | (主な設備) | 超低温フリーザー、クリーンベンチ、クロマトチャンバー、スライド用細胞遠心機、リアルタイムPCR、サーマルサイクラー、共焦点顕微鏡、蛍光顕微鏡、位相差顕微鏡、シーケンサー、フローサイトメーター、液体窒素タンク | |
| 講義室 | 536.9 m ² | 鉄骨鉄筋コンクリート | 室数 6 室 | 收容定員 282 人 | |
| 図書室 | 1,666 m ² | 鉄骨鉄筋コンクリート | 室数 2 室 | 蔵書数 66,000 冊 | 程度 |

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

| 紹介率 | 85.0 | % | 逆紹介率 | 80.4 | % |
|------|------------------------|---|------|----------|---|
| 算出根拠 | A: 紹介患者の数 | | | 13,206 人 | |
| | B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数 | | | 21,237 人 | |
| | C: 救急用自動車によって搬入された患者の数 | | | 9,221 人 | |
| | D: 初診の患者の数 | | | 26,398 人 | |

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 選定理由 | 利害 関係 | 委員の要件 該当状況 |
|-------|--|---------------|---|----------|---------------|
| 相馬孝博 | 千葉大学医学部附属病院 医療安全担当副院長 医療安全管理部 部長 | ○ | 千葉大学医学部附属病院において医療安全担当副院長を務められ、医療安全に関する知識や実績が豊富であること。 | 無 | 1 |
| 滝沢牧子 | 埼玉医科大学総合医療センター 医療安全対策室/医療安全管理学 教授 | | 埼玉医科大学 総合医療センターにおいて医療安全対策室/医療安全管理学教授を務められ、医療安全全般に関する知識が豊富であること。 | 無 | 1 |
| 豊田郁子 | 患者・家族と医療をつなぐ NPO法人架け橋 理事長 | | 長年にわたって医療者と患者・家族間の信頼関係の構築を目的とした活動を行っており、医療を受ける者の代表として適任であること。 | 無 | 2 |
| 中島勸 | 虎の門病院 医療安全部 部長 | | 虎の門病院において医療安全部部長を務められ、医療安全に関する知識や実績が豊富であること。 | 無 | 1 |
| 渡邊俊太郎 | 翼法律事務所 弁護士 | | 関連法務から企業法務まで幅広い分野で活躍され、医療事故調査委員としての実績も十分なこと。 | 無 | 1 |

- 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 (注) 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

| | |
|--------------------------|---|
| 委員名簿の公表の有無 | 有 |
| 委員の選定理由の公表の有無 | 有 |
| 公表の方法 | |
| 病院HPIに掲載(HOME>病院紹介>情報公開) | |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

| | | | |
|---|------------------------------------|-------|----|
| 医療技術名 | 肝切除術(亜区域切除)(腹腔鏡下) | 取扱患者数 | 4 |
| 当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「令和4年度高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技 | | | |
| 医療技術名 | 肝切除術(1区域切除)(外側区域切除を除く)(腹腔鏡下) | 取扱患者数 | 1 |
| 当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「令和4年度高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技 | | | |
| 医療技術名 | ロボット支援胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもの) | 取扱患者数 | 9 |
| 当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「令和4年度高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技 | | | |
| 医療技術名 | ロボット支援胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除術) | 取扱患者数 | 2 |
| 当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「令和4年度高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技 | | | |
| 医療技術名 | 大動脈瘤切除術・上行大動脈(自己弁温存型大動脈基部置換術)及び弓部 | 取扱患者数 | 2 |
| 当該医療技術の概要 「外保連試案2024」に記載されている技術度Eに該当する手技 | | | |
| 医療技術名 | 大動脈瘤切除術・上行大動脈(自己弁温存型大動脈基部置換術) | 取扱患者数 | 6 |
| 当該医療技術の概要 「外保連試案2024」に記載されている技術度Eに該当する手技 | | | |
| 医療技術名 | 大動脈瘤切除術(胸腹部大動脈) | 取扱患者数 | 5 |
| 当該医療技術の概要 「外保連試案2024」に記載されている技術度Eに該当する手技 | | | |
| 医療技術名 | 大動脈弁置換術(弁輪拡大術を伴う) | 取扱患者数 | 2 |
| 当該医療技術の概要 「外保連試案2024」に記載されている技術度Eに該当する手技 | | | |
| 医療技術名 | 脳動静脈奇形摘出術(複雑なもの) | 取扱患者数 | 1 |
| 当該医療技術の概要 「外保連試案2024」に記載されている技術度Eに該当する手技 | | | |
| 医療技術名 | 動脈吻合術(頭蓋内動脈) | 取扱患者数 | 16 |
| 当該医療技術の概要 「外保連試案2024」に記載されている技術度Eに該当する手技 | | | |

| | | | |
|--------------------------------|----------|-------|---|
| 医療技術名 | 脊椎悪性腫瘍手術 | 取扱患者数 | 2 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 「外保連試案2024」に記載されている技術度Eに該当する手技 | | | |

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

| | |
|----------------|----|
| その他の高度医療の種類合計数 | 11 |
| 取り扱い患者数の合計(人) | 50 |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾患名 | 患者数 | | 疾患名 | 患者数 |
|----|---------------------------|-------|-----|----------------------|-----|
| 1 | 筋萎縮性側索硬化症 | 9 | 56 | 下垂体性PRL分泌亢進症 | 1 |
| 2 | 脊髄性筋萎縮症 | 1 | 57 | クッシング病 | 50 |
| 3 | 進行性核上性麻痺 | 7 | 58 | 下垂体前葉機能低下症 | 420 |
| 4 | パーキンソン病 | 414 | 59 | 家族性高コレステロール血症(ホモ接合体) | 131 |
| 5 | 大脳皮質基底核変性症 | 1 | 60 | 甲状腺ホルモン不応症 | 4 |
| 6 | シャルコー・マリー・トゥース病 | 3 | 61 | アジソン病 | 41 |
| 7 | 重症筋無力症 | 123 | 62 | サルコイドーシス | 213 |
| 8 | 多発性硬化症／視神経脊髄炎 | 57 | 63 | 特発性間質性肺炎 | 82 |
| 9 | 慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチ | 15 | 64 | 肺動脈性肺高血圧症 | 55 |
| 10 | 多系統萎縮症 | 7 | 65 | 慢性血栓塞栓性肺高血圧症 | 14 |
| 11 | 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。) | 32 | 66 | リンパ脈管筋腫症 | 11 |
| 12 | ライゾゾーム病 | 1 | 67 | 網膜色素変性症 | 62 |
| 13 | ミトコンドリア病 | 1 | 68 | バッド・キアリ症候群 | 1 |
| 14 | もやもや病 | 106 | 69 | 特発性門脈圧亢進症 | 3 |
| 15 | 進行性多巣性白質脳症 | 2 | 70 | 原発性胆汁性胆管炎 | 132 |
| 16 | 特発性基底核石灰化症 | 2 | 71 | 原発性硬化性胆管炎 | 6 |
| 17 | 全身性アミロイドーシス | 8 | 72 | 自己免疫性肝炎 | 3 |
| 18 | 神経線維腫症 | 17 | 73 | クローン病 | 91 |
| 19 | 天疱瘡 | 13 | 74 | 潰瘍性大腸炎 | 584 |
| 20 | 膿疱性乾癬(汎発型) | 20 | 75 | 好酸球性消化管疾患 | 4 |
| 21 | スティーヴンス・ジョンソン症候群 | 25 | 76 | 慢性特発性偽性腸閉塞症 | 1 |
| 22 | 中毒性表皮壊死症 | 8 | 77 | CFC症候群 | 1 |
| 23 | 高安動脈炎 | 42 | 78 | チャージ症候群 | 1 |
| 24 | 巨細胞性動脈炎 | 19 | 79 | クリオピリン関連周期熱症候群 | 2 |
| 25 | 結節性多発動脈炎 | 33 | 80 | 若年性特発性関節炎 | 54 |
| 26 | 顕微鏡的多発血管炎 | 52 | 81 | TNF受容体関連周期性症候群 | 1 |
| 27 | 多発血管炎性肉芽腫症 | 57 | 82 | 筋ジストロフィー | 24 |
| 28 | 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 | 54 | 83 | 脊髄空洞症 | 10 |
| 29 | 悪性関節リウマチ | 18 | 84 | 脊髄髄膜瘤 | 3 |
| 30 | バージャー病 | 132 | 85 | 遺伝性ジストニア | 1 |
| 31 | 原発性抗リン脂質抗体症候群 | 203 | 86 | 前頭側頭葉変性症 | 1 |
| 32 | 全身性エリテマトーデス | 715 | 87 | ビッカースタッフ脳幹脳炎 | 2 |
| 33 | 皮膚筋炎／多発性筋炎 | 167 | 88 | アレキサンダー病 | 1 |
| 34 | 全身性強皮症 | 322 | 89 | ミオクロニー欠神てんかん | 1 |
| 35 | 混合性結合組織病 | 61 | 90 | レノックス・ガスター症候群 | 3 |
| 36 | シェーグレン症候群 | 1,113 | 91 | スタージ・ウェーバー症候群 | 5 |
| 37 | 成人スチル病 | 37 | 92 | 結節性硬化症 | 5 |
| 38 | 再発性多発軟骨炎 | 4 | 93 | 色素性乾皮症 | 3 |
| 39 | ベーチェット病 | 140 | 94 | 先天性魚鱗癬 | 1 |
| 40 | 特発性拡張型心筋症 | 43 | 95 | 家族性良性慢性天疱瘡 | 2 |
| 41 | 肥大型心筋症 | 221 | 96 | 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。) | 48 |
| 42 | 拘束型心筋症 | 2 | 97 | 特発性後天性全身性無汗症 | 1 |
| 43 | 再生不良性貧血 | 65 | 98 | 弾性線維性仮性黄色腫 | 1 |
| 44 | 自己免疫性溶血性貧血 | 23 | 99 | マルファン症候群 | 23 |
| 45 | 発作性夜間ヘモグロビン尿症 | 7 | 100 | エーラス・ダンロス症候群 | 4 |
| 46 | 特発性血小板減少性紫斑病 | 159 | 101 | ウィリアムズ症候群 | 3 |
| 47 | 血栓性血小板減少性紫斑病 | 7 | 102 | アペール症候群 | 2 |
| 48 | 原発性免疫不全症候群 | 7 | 103 | 多脾症候群 | 2 |
| 49 | IgA腎症 | 223 | 104 | 無脾症候群 | 1 |
| 50 | 多発性嚢胞腎 | 131 | 105 | ブラダー・ウィリ症候群 | 2 |
| 51 | 黄色靭帯骨化症 | 14 | 106 | ソトス症候群 | 3 |
| 52 | 後縦靭帯骨化症 | 53 | 107 | ヌーナン症候群 | 5 |
| 53 | 広範脊柱管狭窄症 | 6 | 108 | 22q11.2欠失症候群 | 1 |
| 54 | 特発性大腿骨頭壊死症 | 31 | 109 | 修正大血管転位症 | 28 |
| 55 | 下垂体性ADH分泌異常症 | 4 | 110 | 完全大血管転位症 | 21 |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾患名 | 患者数 | | 疾患名 | 患者数 |
|-----|-----------------------|-----|-----|-----|-----|
| 111 | 単心室症 | 25 | 166 | | |
| 112 | 左心低形成症候群 | 1 | 167 | | |
| 113 | 三尖弁閉鎖症 | 19 | 168 | | |
| 114 | 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症 | 8 | 169 | | |
| 115 | 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症 | 2 | 170 | | |
| 116 | ファロー四徴症 | 94 | 171 | | |
| 117 | 両大血管右室起始症 | 24 | 172 | | |
| 118 | エプスタイン病 | 8 | 173 | | |
| 119 | アルポート症候群 | 4 | 174 | | |
| 120 | 急速進行性糸球体腎炎 | 81 | 175 | | |
| 121 | 一次性ネフローゼ症候群 | 244 | 176 | | |
| 122 | 紫斑病性腎炎 | 14 | 177 | | |
| 123 | オスラー病 | 1 | 178 | | |
| 124 | 閉塞性細気管支炎 | 9 | 179 | | |
| 125 | 肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性) | 3 | 180 | | |
| 126 | 副甲状腺機能低下症 | 692 | 181 | | |
| 127 | 偽性副甲状腺機能低下症 | 3 | 182 | | |
| 128 | ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症 | 1 | 183 | | |
| 129 | フェニルケトン尿症 | 1 | 184 | | |
| 130 | ポルフィリン症 | 1 | 185 | | |
| 131 | 家族性地中海熱 | 17 | 186 | | |
| 132 | 強直性脊椎炎 | 85 | 187 | | |
| 133 | 軟骨無形成症 | 1 | 188 | | |
| 134 | リンパ管腫症/ゴーハム病 | 1 | 189 | | |
| 135 | クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群 | 3 | 190 | | |
| 136 | 後天性赤芽球癆 | 3 | 191 | | |
| 137 | ダイヤモンド・ブラックファン貧血 | 1 | 192 | | |
| 138 | ファンコニ貧血 | 1 | 193 | | |
| 139 | ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型) | 13 | 194 | | |
| 140 | 総排泄腔遺残 | 1 | 195 | | |
| 141 | 先天性横隔膜ヘルニア | 2 | 196 | | |
| 142 | 胆道閉鎖症 | 8 | 197 | | |
| 143 | 遺伝性膵炎 | 2 | 198 | | |
| 144 | IgG4関連疾患 | 80 | 199 | | |
| 145 | 黄斑ジストロフィー | 3 | 200 | | |
| 146 | 好酸球性副鼻腔炎 | 108 | 201 | | |
| 147 | 進行性ミオクロームスてんかん | 6 | 202 | | |
| 148 | 先天性僧帽弁狭窄症 | 2 | 203 | | |
| 149 | 無虹彩症 | 3 | 204 | | |
| 150 | | | 205 | | |
| 151 | | | 206 | | |
| 152 | | | 207 | | |
| 153 | | | 208 | | |
| 154 | | | 209 | | |
| 155 | | | 210 | | |
| 156 | | | 211 | | |
| 157 | | | 212 | | |
| 158 | | | 213 | | |
| 159 | | | 214 | | |
| 160 | | | 215 | | |
| 161 | | | 216 | | |
| 162 | | | 217 | | |
| 163 | | | 218 | | |
| 164 | | | 219 | | |
| 165 | | | 220 | | |

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

| | |
|----------|-------|
| 疾患数 | 149 |
| 合計患者数(人) | 8,787 |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|---|------------------------|
| 医療DX推進体制整備加算 | ハイリスク分娩管理加算 |
| 地域歯科診療支援病院歯科初診料 | 呼吸ケアチーム加算 |
| 歯科外来診療医療安全対策加算2 | 後発医薬品使用体制加算3 |
| 歯科外来診療感染対策加算4 | 病棟薬剤業務実施加算1 |
| 特定機能病院入院基本料 | 病棟薬剤業務実施加算2 |
| 救急医療管理加算 | データ提出加算(2) |
| 超急性期脳卒中加算 | 入退院支援加算【加算1】 |
| 診療録管理体制加算1 | 認知症ケア加算【加算1】 |
| 医師事務作業補助体制加算1(15対1) | せん妄ハイリスク患者ケア加算 |
| 急性期看護補助体制加算(25対1)(夜間100対1)夜間看護体制加算看護補助体制充実加算1 | 精神疾患診療体制加算 |
| 看護職員夜間配置加算(12対1) | 排尿自立支援加算 |
| 療養環境加算 | 地域医療体制確保加算 |
| 重症者等療養環境特別加算 | 地域歯科診療支援病院入院加算 |
| 無菌治療室管理加算1,2 | 救命救急入院料3(HCU) |
| 放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合) | 救命救急入院料4(CCM) |
| 緩和ケア診療加算 | 特定集中治療室管理料1(ICU) |
| 小児緩和ケア診療加算 | 特定集中治療室管理料3(ICC) |
| 精神科リエゾンチーム加算 | ハイケアユニット入院医療管理料1(IMCU) |
| 摂食障害入院医療管理加算 | 新生児特定集中治療室管理料1(NICU) |
| 栄養サポートチーム加算 | 新生児治療回復室入院医療管理料(GCU) |
| 医療安全対策加算1 | 小児入院医療管理料1(6E) |
| 感染対策向上加算1(指導強化加算) | 緩和ケア病棟入院料1(10W) |
| 患者サポート体制充実加算 | |
| 報告書管理体制加算 | |
| 褥瘡ハイリスク患者ケア加算 | |
| ハイリスク妊娠管理加算 | |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|---------------------------------|--|
| 外来栄養食事指導料の注2に規定する施設基準 | 外来腫瘍化学療法診療料1 |
| 外来栄養食事指導料の注3に規定する施設基準 | 連携充実加算 |
| 心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算 | ニコチン依存症管理料 |
| 糖尿病合併症管理料 | 療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談体制充実加算 |
| がん性疼痛緩和指導管理料 | がん治療連携計画策定料 |
| がん患者指導管理料イ | 外来排尿自立指導料 |
| がん患者指導管理料ロ | ハイリスク妊産婦連携指導料1 |
| がん患者指導管理料ハ | ハイリスク妊産婦連携指導料2 |
| がん患者指導管理料ニ | 肝炎インターフェロン治療計画料 |
| 外来緩和ケア管理料 | こころの連携指導料(Ⅱ) |
| 移植後患者指導管理料(臓器移植後) | 薬剤管理指導料 |
| 移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後) | 医療機器安全管理料1 |
| 糖尿病透析予防指導管理料 | 医療機器安全管理料2 |
| 乳腺炎重症化予防・ケア指導料 | 医療機器安全管理料(歯科) |
| 婦人科特定疾患治療管理料 | 歯科治療時医療管理料 |
| 腎代替療法指導管理料 | 在宅血液透析指導管理料 |
| 一般不妊治療管理料 | 在宅酸素療法指導管理料の遠隔モニタリング加算 |
| 生殖補助医療管理料1 | 在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の遠隔モニタリング加算 |
| 二次性骨折予防継続管理料1 | 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料 |
| 二次性骨折予防継続管理料3 | 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定 |
| 下肢創傷処置管理料 | 遺伝学的検査 |
| 慢性腎臓病透析予防指導管理料 | 染色体検査の注2に規定する基準 |
| 地域連携小児夜間・休日診療料2 | 骨髄微小残存病変量測定 |
| 地域連携夜間・休日診療料 | BRCA1/2遺伝子検査 |
| 院内トリアージ実施料 | がんゲノムプロファイリング検査 |
| 外来放射線照射診療料 | 先天性代謝異常症検査 |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|--|--|
| 抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査) | 冠動脈CT撮影加算 |
| HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定) | 血流予備量比コンピューター断層撮影 |
| ウイルス・細菌核酸多項目同時検出→ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの) | 外傷全身CT加算 |
| 検体検査管理加算(Ⅰ) | 心臓MRI撮影加算 |
| 検体検査管理加算(Ⅳ) | 乳房MRI撮影加算 |
| 国際標準検査管理加算 | 小児鎮静下MRI撮影加算 |
| 遺伝カウンセリング加算 | 頭部MRI撮影加算 |
| 遺伝性腫瘍カウンセリング加算 | 全身MRI撮影加算 |
| 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算 | 抗悪性腫瘍剤処方管理加算 |
| 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト | 外来化学療法加算1 |
| 胎児心エコー法 | 無菌製剤処理料 |
| ヘッドアップティルト試験 | 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ) |
| 単線維筋電図 | 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ) |
| 神経学的検査 | 運動器リハビリテーション料(Ⅰ) |
| 補聴器適合検査 | 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ) |
| コンタクトレンズ検査料1 | がん患者リハビリテーション料 |
| 小児食物アレルギー負荷検査 | 歯科口腔リハビリテーション料2 |
| 内服・点滴誘発試験 | 認知療法・認知行動療法1 |
| 経頸静脈的肝生検 | 処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1 |
| 前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの) | 人工腎臓 |
| CT透視下気管支鏡検査加算 | 導入期加算2及び腎代替療法実績加算 |
| 経気管支凍結生検法 | 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算 |
| 画像診断管理加算1 | 下肢抹消動脈疾患指導管理加算 |
| 画像診断管理加算4 | 難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法 |
| 遠隔画像診断 | 移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法 |
| CT撮影及びMRI撮影 | ストーマ合併症加算 |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|---|--|
| 口腔粘膜処置 | 気管支バルブ留置術 |
| 歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算 | 胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) |
| CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー | 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合) |
| 有床義歯修理及び有床義歯内面的合法の歯科技工加算1及び2 | 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合) |
| 皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。) | 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除) |
| 組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。) | 肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法 |
| 緊急整備固定加算及び緊急挿入加算 | 食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膈腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの) |
| 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。) | 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) |
| 椎間板内酵素注入療法 | 胸腔鏡下弁形成術 |
| 緊急穿頭血腫除去術 | 胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) |
| 脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 | 胸腔鏡下弁置換術 |
| 角結膜悪性腫瘍切除手術 | 経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術) |
| 治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。)) | 経皮的僧帽弁クリップ術 |
| 羊膜移植術 | 不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの) |
| 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)) | 不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的の手術によるもの) |
| 緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術) | 経皮的中隔心筋焼灼術 |
| 緑内障手術(濾過胞再建術(needle 法)) | ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 |
| 網膜再建術 | ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー) |
| 内視鏡下中甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下ハセトリ中甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術 | 両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合) |
| 内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術 | 両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合) |
| 乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)、乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独) | 植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの) |
| 乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの)) | 植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術 |
| ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後) | 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合) |
| 胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合) |
| 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | 大動脈バルーンポンピング法(IABP法) |
| 胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | 経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの) |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|---|--|
| 補助人工心臓 | 胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術) |
| 経皮的下肢動脈形成術 | 乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術) |
| 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方) | 子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術) |
| 内視鏡的逆流防止粘膜切除術 | 輸血管理料 I |
| 腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの) | 輸血適正使用加算 |
| バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術 | 貯血式自己血輸血管理体制加算 |
| 腹腔鏡下肝切除術 | 自己生体組織接着剤作成術 |
| 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術 | 自己クリオプレシピテート作製術(用手法) |
| 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術 | 同種クリオプレシピテート作製術 |
| 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 | 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 |
| 腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | 胃瘻造設時嚥下機能評価加算 |
| 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの) | 歯周組織再生誘導手術 |
| 腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法 | 広範囲顎骨支持型装置埋入手術 |
| 腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | レーザー機器加算 |
| 生体腎移植術 | 麻酔管理料(I) |
| 膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道) | 麻酔管理料(II) |
| 人工尿道括約筋植込・置換術 | 周術期薬剤管理加算 |
| 精巣内精子採取術 | 放射線治療専任加算 |
| 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの) | 外来放射線治療加算 |
| 腹腔鏡下仙骨腫固定術 | 高エネルギー放射線治療 |
| 腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | 1回線量増加加算 |
| 腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | 強度変調放射線治療(IMRT) |
| 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。) | 画像誘導放射線治療加算(IGRT) |
| 腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術 | 体外照射呼吸性移動対策加算 |
| 体外式膜型人工肺管理料 | 定位放射線治療 |
| 手術の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1 | 定位放射線治療呼吸性移動対策加算 |

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|---|--------|----------------|-----------|----------|------------|
| 抗毒素製剤に関する総合的な対策に資する研究 | 一二三 亨 | 救急部 | 6,000,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 患者層別化マーカー探索技術の開発／がん免疫モニタリングによる患者層別化を行う基盤技術の開発 | 鹿股 直樹 | 病理診断科 | 384,616 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 日・リトアニアにおける遺伝性乳癌の遺伝学的特徴の比較検討及び乳房MRIによる早期乳癌の検出能に関する研究 | 喜多 久美子 | 乳腺外科 | 250,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 「一過性骨髄異常増殖症(TAM)に対する標準化学療法法の確立を目指した第2相臨床試験」の開発 | 長谷川 大輔 | 小児科 | 100,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| ダウン症合併骨髄性白血病に対する標準的治療法の確立 | 長谷川 大輔 | 小児科 | 200,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 小児急性骨髄性白血病の標準的治療法の確立のための臨床研究 | 長谷川 大輔 | 小児科 | 100,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 急性期病棟の医療負担を軽減するせん妄対応支援プログラムに関する研究開発 | 水野 篤 | 循環器内科 | 1,000,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| オールジャパン拡張型心筋症ゲノムコホート研究によるゲノム医療の発展 | 水野 篤 | 循環器内科 | 500,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 小児および若年成人のEBウイルス関連血球貪食性リンパ組織球症(EBV-HLH)に対する新規標準治療の確立 | 小野 林太郎 | 小児科 | 100,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 血液透析治療での最適な除水計画を支援するプログラム医療機器(人工知能)の開発 | 中山 昌明 | 腎臓内科 | 1,500,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 国や都道府県が循環器病対策に関する計画を策定する際に利用可能な指標の設定、及び新型コロナウイルス感染症による循環器病への影響の評価のための研究 | 水野 篤 | 循環器内科 | 代表者一括計上 | 補 | 厚生労働省 |
| 腫瘍組織でのmRNA分解機構関連蛋白の発現と局在の解明 | 鹿股 直樹 | 病理診断科 | 1,500,000 | 補 | 日本学術振興会 |
| 小児から若年成人における進行期骨髄異形成症候群の多元的病態解析と予後因子の解明 | 長谷川 大輔 | 小児科 | 1,100,000 | 補 | 日本学術振興会 |
| 擾乱線量分布解析による乳がん高精度放射線治療の新たな治療戦略の開発 | 山内 遼平 | 放射線科放射線治療品質管理室 | 1,200,000 | 補 | 日本学術振興会 |
| ヤマカガシ咬傷における根拠的治療薬であるヤマカガシ抗毒素に対する代替治療薬の検討 | 一二三 亨 | 救急部 | 1,800,000 | 補 | 日本学術振興会 |
| 自然言語処理とGANを利用したマルチモーダルコーパスによる説明可能AIの実現 | 松迫 正樹 | 放射線科 | 1,000,000 | 補 | 日本学術振興会 |
| 遺伝性乳癌卵巣癌の健康管理方法を選択するための意思決定支援ツールの効果検証 | 大川 恵 | 看護部 | 300,000 | 補 | 日本学術振興会 |
| 高分解能MRI、T2マップ、ZTEによる手関節構造解析と臨床応用 | 堀内 沙矢 | 放射線科 | 600,000 | 補 | 日本学術振興会 |

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|--|-------|----------|-----------|----------|---------|
| 緩和ケア診療加算による医療の質評価項目への影響 | 水野 篤 | 循環器内科 | 1,300,000 | 補 | 日本学術振興会 |
| 腫瘍浸潤リンパ球に基づく乳房専用PETを用いた新規乳癌術前治療効果予測モデル構築 | 木村 優里 | 乳腺外科 | 800,000 | 補 | 日本学術振興会 |
| 肝移植術後早期回復におけるHMB投与の有用性と新規メカニズムの解明 | 海道 利実 | 消化器・一般外科 | 0 | 補 | 日本学術振興会 |
| カテーテル関連血流感染症予防に対するオラネキシジングルコン酸塩の有効性の検討 | 一二三 亨 | 救急部 | 0 | 補 | 日本学術振興会 |
| CKD患者のサルコペニアの病態機序解明およびHIF-PH阻害薬の効果に関する検討 | 中山 昌明 | 腎臓内科 | 0 | 補 | 日本学術振興会 |
| ZTEシーケンスを用いたCT情報を包含するAll in one MRIの開発 | 松迫 正樹 | 放射線科 | 100,000 | 補 | 日本学術振興会 |

計 24

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の特定機能病院における所属 | 題名 | 雑誌名・出版年月等 | 論文種別 |
|----|---|-------------------|--|---|------------------|
| 1 | Sueyoshi K, Otsubo K, Hirota S, et al. | 呼吸器外科 | Fish Bone Descending in the Mediastinum. | Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2023 Dec; 29(6): 323-325. | Case Report |
| 2 | Hirano K, Kobayashi D, Shimbo T, et al. | 腎センター | Impact of a continuous quality improvement program on contrast-induced nephropathy in outpatients with chronic kidney disease: an interrupted time-series study. | Nephrol Dial Transplant. 2023 May; 38(5): 1249-1259. | Original Article |
| 3 | Shimada G, Matsubara T, Sanbonmatsu M, et al. | ヘルニアセンター/消化器・一般外科 | The first case of robotic-assisted transabdominal retrorectus repair for incisional hernia in Japan. | Asian J Endosc Surg. 2023 Apr; 16(2): 305-311. | Case Report |
| 4 | So C, Suzuki M, Iwaki Y, et al. | 呼吸器内科 | Unexpected Complications 25 Years after Coil Embolization for Pulmonary Arteriovenous Fistula. | Intern Med. 2023 May; 62(10): 1521-1525. | Case Report |
| 5 | Shiina Y, Inai K, Shimada E, et al. | 循環器内科 | Abdominal lymphatic pathway in Fontan circulation using non-invasive magnetic resonance lymphangiography. | Heart Vessels. 2023 Apr; 38(4): 581-587. | Original Article |
| 6 | Mashimo S, Kubota J, Sato H, et al. | リハビリテーション科 | The impact of early mobility on functional recovery after hip fracture surgery. | Disabil Rehabil. 2023 Dec; 45(26): 4388-4393. | Original Article |
| 7 | Yamada D, Matsusako M, Yoneoka D, et al. | 放射線科 | Ex-vivo 1.5T MR Imaging versus CT in Estimating the Size of the Pathologically Invasive Component of Lung Adenocarcinoma Spectrum Lesions. | Magn Reson Med Sci. 2024 Jan; 23(1): 92-101. | Original Article |
| 8 | Mochizuki T, Ryu B, Kushi K, et al. | 脳神経外科 | Cerebral venous thrombosis associated with hyperhomocysteinemia and iron-deficiency anemia induced by autoimmune gastritis: A case report and literature review. | Neuroradiol J. 2023 Aug; 36(4): 491-495. | Review |
| 9 | Shiba D, Hifumi T, Tomiyama K, et al. | 救急科 | Traumatic retropharyngeal hematoma without spinal cord injury or spinal fracture: a retrospective multicenter analysis. | Eur J Trauma Emerg Surg. 2023 Jun; 49(3): 1477-1484. | Original Article |
| 10 | Ochi T, Yoshida A, Takahashi O, et al. | 乳腺外科 | Prognostic effect of subsequent childbirth after the diagnosis of breast cancer using propensity score matching analysis. | Breast Cancer. 2023 May; 30(3): 354-363. | Original Article |
| 11 | Yoshida T, Nagao T, Hayashi K, et al. | 女性総合診療部 | Endometritis risk factors after arterial embolisation for postpartum haemorrhage. | J Obstet Gynaecol. 2023 Dec; 43(1): 2158323. | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の特定機能病院における所属 | 題名 | 雑誌名・出版年月等 | 論文種別 |
|----|---|--------------------|---|--|------------------|
| 12 | Mukai K, Tsunoda H, Imai R, et al. | 放射線科 | The location of unilateral axillary lymphadenopathy after COVID-19 vaccination compared with that of metastasis from breast cancer without vaccination. | Jpn J Radiol. 2023 Jun; 41(6): 617-624. | Original Article |
| 13 | Ryu B, Mochizuki T, Kushi K, et al. | 神経血管内治療科/ 脳神経外科 | Optimal guiding catheter position during advancement of the guiding catheter into the carotid artery from the aortic arch via transfemoral approach. | Neuroradiol J. 2023 Aug; 36(4): 470-478. | Original Article |
| 14 | Fukuda T, Tsunoda H, Yagishita K, et al. | 放射線科 | Deep Learning for Differentiation of Breast Masses Detected by Screening Ultrasound Elastography. | Ultrasound Med Biol. 2023 Apr; 49(4): 989-995. | Original Article |
| 15 | Suzuki T, Hifumi T, Goto M, et al. | 救急科 | A Case of Sudden Cardiac Arrest After Brainstem Infarction. | Ther Hypothermia Temp Manag. 2023 Jun; 13(2): 87-89. | Case Report |
| 16 | Yamasaki M, Yoshino H, Kuniyama T, et al. | 心臓血管外科 | Outcomes of type A acute aortic dissection with cardiopulmonary arrest: Tokyo Acute Aortic Super-network Registry. | Eur J Cardiothorac Surg. 2023 Apr; 63(4): ezad056. (オンライン) | Original Article |
| 17 | Shima S, Sato S, Ryu B, et al. | 神経血管内治療科/ 脳神経外科 | Angiographic Index for the Treatment Efficacy and Functional Outcomes of Spinal Cord Arteriovenous Shunts: the Vertebral Blush Sign. | Clin Neuroradiol. 2023 Sep; 33(3): 721-727. | Original Article |
| 18 | Ito K, Ryu B, Shima S, et al. | 脳神経外科 | Pure spinal intraosseous arteriovenous fistula: A case report. | Neuroradiol J. 2023 Dec; 36(6): 755-759. | Case Report |
| 19 | Ikejima K, Tokioka S, Yagishita K, et al. | 放射線科 | Clinicopathological and ultrasound characteristics of breast cancer in BRCA1 and BRCA2 mutation carriers. | J Med Ultrason (2001). 2023 Apr; 50(2): 213-220. | Original Article |
| 20 | Kuno H, Fujimaru T, Kadota N, et al. | 腎センター | Severe lactic acidosis with euglycemic diabetic ketoacidosis due to metformin overdose. | CEN Case Rep. 2023 Nov; 12(4): 408-412. | Case Report |
| 21 | Nakamura T, Ro S, Morita C, et al. | 呼吸器内科 | Difficult removal after bronchial filling of an endobronchial Watanabe spigot with N-butyl-2-cyanoacrylate for intractable pneumothorax: A case report. | Respirol Case Rep. 2023 Apr; 11(4): e01126. (オンライン) | Case Report |
| 22 | Manome-Zenke Y, Denda-Nagai K, Murakami R, et al. | 皮膚科 | Possible Involvement of Antigen-Presenting Cells Expressing the Macrophage Galactose-Type C-Type Lectin in Inflammatory Skin Diseases. | J Invest Dermatol. 2023 Sep; 143(9): 1834-1838.e10. | Letter |
| 23 | Shima S, Ryu B, Sato S, et al. | 脳神経外科/神経血管内治療科 | FLOW-diverted Glue Embolization to Target lesions (FLOW-GET) technique for spinal vascular diseases: A technical note. | J Neuroradiol. 2023 Sep; 50(5): 505-510. | Others |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の特定機能病院における所属 | 題名 | 雑誌名・出版年月等 | 論文種別 |
|----|---|--------------------|--|--|------------------|
| 24 | Morishige S, Ohyama T, Fujita N, et al. | 麻酔科 | Risk Factors for Intraoperative Hypothermia during Holmium Laser Enucleation of the Prostate. | Urol Int. 2023 Aug; 107(7): 672-677. | Original Article |
| 25 | Yamauchi H, Toi M, Takayama S, et al. | 乳腺外科 | Adjuvant olaparib in the subset of patients from Japan with BRCA1- or BRCA2-mutated high-risk early breast cancer from the phase 3 OlympiA trial. | Breast Cancer. 2023 Jul; 30(4): 596-605. | Original Article |
| 26 | Yamahata H, Yabuta M, Rahman M | 放射線科 | Retrospective comparison of clinical outcomes of ultrasound-guided percutaneous cholecystostomy in patients with and without coagulopathy: a single center's experience. | Jpn J Radiol. 2023 Sep; 41(9): 1015-1021. | Original Article |
| 27 | Kameoka Y, Yoshimura S, Matsufuji H, et al. | 小児外科 | Criteria for Preserving Grossly Ischemic Torsed Testicles Using Indocyanine Green Fluorescence Imaging: A Single-Center Case Series. | Urology. 2023 Aug; 178: 133-137. | Case Report |
| 28 | So C, Ushigusa T, Jinta T | 呼吸器内科 | Cavitary lung metastases of mixed metaplastic breast cancer mimicking aspergilloma. | Thorac Cancer. 2023 May; 14(15): 1408-1410. | Case Report |
| 29 | Nakabayashi R, Matsubara T, Shimada G | 消化器・一般外科 | Arteriovenous malformation of the spermatic cord mimicking reducible inguinal hernia. | Asian J Endosc Surg. 2023 Jul; 16(3): 575-578. | Case Report |
| 30 | Eguchi S, Nagaoki Y, Ohde S, et al. | 小児科 | Impact of labor analgesia on mode of delivery and neonatal outcomes in Japan: A retrospective cohort study. | PLoS One. 2023 Apr; 18(4): e0284368. (オンライン) | Original Article |
| 31 | Ryu B, Mochizuki T, Shima S, et al. | 神経血管内治療科/ 脳神経外科 | Postsurgical dural supply to the spinal cord arteriovenous malformation in spinal arteriovenous metamerism syndrome. | Neuroradiology. 2023 Jun; 65(6): 1073-1076. | Case Report |
| 32 | Yamada D, Imai R, Matsusako M, et al. | 放射線科 | Intravascular large B-cell lymphoma appearance on dual-energy computed tomography: a case report. | BMC Pulm Med. 2023 Apr; 23(1): 125. (オンライン) | Case Report |
| 33 | Imai R, Tsuchida Y, Jinta T | 呼吸器内科 | Sarcoidosis or sarcoid-like reaction with mediastinal lymphadenopathy in patients after breast cancer surgery. | Respir Investig. 2023 Jul; 61(4): 398-404. | Original Article |
| 34 | Suzuki T, Kishi T, Ishida M, et al. | 循環器内科 | The time trend of information seeking behavior about salt reduction using Google Trends: infodemiological study in Japan. | Hypertens Res. 2023 Aug; 46(8): 1886-1891. | Original Article |
| 35 | Iwasaki M, Nishizawa T, Iida E, et al. | 一般内科 | Third cranial nerve palsy due to COVID-19 infection. | BMJ Case Rep. 2023 May; 16(5): e255142. (オンライン) | Case Report |
| 36 | Kim Y, Ishikawa K, Kawai F, et al. | 感染症科 | First case report of splenomegaly with splenic infarction due to aortic graft infection. | BMC Cardiovasc Disord. 2023 May; 23(1): 237. (オンライン) | Case Report |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の特定機能病院における所属 | 題名 | 雑誌名・出版年月等 | 論文種別 |
|----|--|-------------------|--|---|------------------|
| 37 | Kim Y, Yamamoto S, Kato K | 消化器内科 | Profile of Nivolumab in the Treatment of Resected Esophageal Squamous Cell Carcinoma: A Review of the Clinical Data. | Cancer Manag Res. 2023 May; 15: 399-406. | Review |
| 38 | Nakabayashi R, Matsubara T, Shimada G | 消化器・一般外科 | The endoscopic-assisted or endoscopic mini- or less-open preperitoneal (E/MILOP) approach for primary and incisional ventral hernia repair. | Asian J Endosc Surg. 2023 Jul; 16(3): 482-488. | Original Article |
| 39 | Fukui S, Rokutanda R, Kawaai S, et al. | リウマチ膠原病センター | Current evidence and practical knowledge for ultrasound-guided procedures in rheumatology: Joint aspiration, injection, and other applications. | Best Pract Res Clin Rheumatol. 2023 Mar; 37(1): 101832. | Review |
| 40 | Nishizawa T, Hayashi K, Amano N, et al. | 一般内科 | Characteristics of participants in a public rubella antibody testing program conducted at a Japan professional football league venue. | J Gen Fam Med. 2023 May; 24(3): 194-198. | Original Article |
| 41 | Takehara Y, Matsuda N, Kobayashi D, et al. | 乳腺外科 | Radiation-induced angiosarcoma of the breast: individual participant meta-analysis of Japanese population. | Breast Cancer. 2023 Sep; 30(5): 739-747. | Review |
| 42 | Nakayama M, Miyazaki M, Hamada C, et al. | 腎センター | Pathophysiology of encapsulating peritoneal sclerosis: lessons from findings of the past three decades in Japan. | Clin Exp Nephrol. 2023 Sep; 27(9): 717-727. | Review |
| 43 | Nakamura T, Imai R, Kitamura A, et al. | 呼吸器内科 | Investigating Viral Involvement in Immunocompromised Patients Using Comprehensive Infectious Disease Testing Including FilmArray Respiratory Panel 2.1 on Bronchoscopy: A Retrospective Study. | Cureus. 2023 May; 15(5): e38820. (オンライン) | Original Article |
| 44 | Nishida H, Abe K, Tamaki R, et al. | 心臓血管外科 | Candida Prosthetic Valve Endocarditis. | Intern Med. 2024 Feb; 63(3): 467. (オンライン) | Others |
| 45 | Kaido T | 消化器・一般外科 | Proposal of definition and diagnostic criteria for sarcopenic obesity by ESPEN and EASO. | Hepatobiliary Surg Nutr. 2023 Jun; 12(3): 431-434. | Others |
| 46 | Ishikawa K, Shibutani K, Kawai F, et al. | 感染症科 | Effectiveness of Extended or Continuous vs. Bolus Infusion of Broad-Spectrum Beta-Lactam Antibiotics for Febrile Neutropenia: A Systematic Review and Meta-Analysis. | Antibiotics (Basel). 2023 Jun; 12(6): 1024. (オンライン) | Review |
| 47 | Shiratori Y, Ikeya T, Fukuda K | 消化器内科 | Endoscopic band ligation for persistent mucosal prolapse syndrome. | Gastrointest Endosc. 2023 Nov; 98(5): 870-871. | Others |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の特定機能病院における所属 | 題名 | 雑誌名・出版年月等 | 論文種別 |
|----|--|-------------------|--|--|------------------|
| 48 | Ozawa Y, Ohgami K, Sasaki K, et al. | 眼科 | Long-term surveillance provides real-world evidences of safety and effectiveness in intravitreal aflibercept treatment for age-related macular degeneration. | Sci Rep. 2023 Jun; 13(1): 10597. (オンライン) | Original Article |
| 49 | Mizuno A, Kaneko H, Suzuki Y, et al. | 循環器内科 | Enduring Relevance of the Stages of Change Model for Transforming Lifestyle Behaviors. | Circ J. 2023 Aug; 87(8): 1138-1142. | Original Article |
| 50 | Okamoto T, Okamoto S, Yamamoto K, et al. | 消化器内科 | Bulbar and post-bulbar duodenal ulcers: characteristics based on location. | Eur J Gastroenterol Hepatol. 2023 Sep; 35(9): 955-961. | Original Article |
| 51 | Shibutani K, Mori N | 感染症科 | A Surviving Case of Progressive Multifocal Leukoencephalopathy. | Intern Med. 2024 Feb; 63(4): 625-626. | Others |
| 52 | Iwasaki M, So C, Jinta T | 呼吸器内科 | Identification of a TP53 Mutation in a Patient With Li-Fraumeni Syndrome and Not Meeting the Revised Chompret Criteria: A Case Report. | Cureus. 2023 Jun; 15(6): e40025. (オンライン) | Case Report |
| 53 | Suzuki T, Mizuno A, Kishi T, et al. | 循環器内科 | Impact of Tweet Content on the Number of Retweets “Tweet the Meeting 2022”. | Circ Rep. 2023 Jul; 5(7): 306-310. | Original Article |
| 54 | Dai Z, Ohde S | 循環器内科 | Serial N-Terminal Pro-B-Type Natriuretic Peptide Measurements in the Population Without Clinical Heart Failure. | JAMA Cardiol. 2023 Sep; 8(9): 889. (オンライン) | Others |
| 55 | Fukui S, Shikino K, Nishizaki Y, et al. | リウマチ膠原病センター | Association between regional quota program in medical schools and practical clinical competency based on General Medicine In-Training Examination score: a nationwide cross-sectional study of resident physicians in Japan. | Postgrad Med J. 2023 Nov; 99(1177): 1197-1204. | Original Article |
| 56 | Imai R, Kitamura A | 呼吸器内科 | Successful treatment with atezolizumab in a haemodialysis patient with large cell neuroendocrine carcinoma. | Respirol Case Rep. 2023 Aug; 11(8): e01193. (オンライン) | Case Report |
| 57 | Ishikawa K | 感染症科 | A Randomized Controlled Trial of Preoperative Prophylactic Antibiotics for Percutaneous Nephrolithotomy in Moderate to High Infectious Risk Population: A Report From the EDGE Consortium. Letter. | J Urol. 2023 Oct; 210(4): 581. | Letter |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の特定機能病院における所属 | 題名 | 雑誌名・出版年月等 | 論文種別 |
|----|---|-------------------|--|---|------------------|
| 58 | Ishikawa K, Kawai F, Morin N | 感染症科 | Increased human immunodeficiency virus viral load with cerebral infarction due to varicella zoster virus vasculopathy on treatment with bicitgravir/emtricitabine/tenofovir alafenamide suspension: a case report and literature review. | AIDS Res Ther. 2023 Jul; 20(1): 53. (オンライン) | Review |
| 59 | Kurozumi N, Fujita N, Kaneko T, et al. | 麻酔科 | Vasopressor Effect of Indigo Carmine in the Management of Refractory Neurogenic Shock. | Cureus. 2023 Jun; 15(6): e41004. (オンライン) | Case Report |
| 60 | Shibutani K, Ishikawa K, Morin N | 感染症科 | Uncommon but Clinically Significant: Bacillus Calmette-Guerin (BCG) Infection of the Urinary Tract and its Impact on Quality of Life. | Am J Case Rep. 2023 Aug; 24: e940375. (オンライン) | Case Report |
| 61 | Shiratori Y, Ishii N, Fukuda K | 消化器内科 | Interpreting colonoscopy timing in patients with colonic diverticular bleeding. | Dig Endosc. 2023 Nov; 35(7): 929. | Letter |
| 62 | Ishikawa K, Hasegawa R, Shibutani K, et al. | 感染症科 | Probiotic-related Clostridium butyricum bacteremia: a case report and literature review. | Anaerobe. 2023 Oct; 83: 102770. (オンライン) | Review |
| 63 | Mochizuki T, Ryu B, Sato S, et al. | 神経血管内治療科 | Successful embolization of ventricular arteriovenous malformation supplied by the choroidal artery: A case report and literature review. | Surg Neurol Int. 2023 Jul; 14: 254. (オンライン) | Review |
| 64 | Nakamura K, Suzuki K, Fukuda K | 消化器内科 | Endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration for a pericardial lesion. | J Med Ultrason (2001). 2023 Oct; 50(4): 571-572. | Others |
| 65 | Nakamura T, Yoshida T, Takeyasu Y, et al. | 呼吸器内科 | Distinct metastatic spread and progression patterns in patients treated with crizotinib for ROS1- and ALK-rearranged non-small cell lung cancer: a single-center retrospective study. | Transl Lung Cancer Res. 2023 Jul; 12(7): 1436-1444. | Original Article |
| 66 | Yokosuka R, Ikeya T, Yamato H, et al. | 消化器内科 | Perineurioma Diagnosed After Endoscopic Treatment of Suspected Gastric Adenocarcinoma of the Fundic Gland. | ACG Case Rep J. 2023 Aug; 10(8): e011110. (オンライン) | Case Report |
| 67 | Niwa K, von Kodolitsch Y, Oto Öztekin, et al. | 循環器内科 | Introduction to the focused series on "Current Management Aspects in Adult Congenital Heart Disease (ACHD): Part V". | Cardiovasc Diagn Ther. 2023 Apr; 13(2): 323-325. | Others |
| 68 | Mae H, Nishizawa T, Wakai R, et al. | 一般内科 | Haemosuccus pancreaticus associated with autosomal dominant polycystic kidney disease and chronic pancreatitis. | BMJ Case Rep. 2023 Dec; 16(8): e255855. (オンライン) | Case Report |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の特定機能病院における所属 | 題名 | 雑誌名・出版年月等 | 論文種別 |
|----|--|-------------------|---|---|------------------|
| 69 | Nagai N, Mushiga Y, Ozawa Y | 眼科 | Evaluating fine changes in visual function of diabetic eyes using spatial-sweep steady-state pattern electroretinography. | Sci Rep. 2023 Aug; 13(1): 13686. (オンライン) | Original Article |
| 70 | Konishi S, Ono R, Tanaka M, et al. | 小児科 | Cytokine-based disease monitoring in refractory HLH with primary EBV infection. | Pediatr Int. 2023 Aug; 65(1): e15590. (オンライン) | Others |
| 71 | Watanabe A, Inoue S, Okatsu A, et al. | 看護部 | Complementary and alternative medicine use by pregnant women in Japan: a pilot survey. | BMC Complement Med Ther. 2023 Aug; 23(1): 298. (オンライン) | Original Article |
| 72 | Watanabe K, Sato E, Mishima E, et al. | 腎センター | Changes in Metabolomic Profiles Induced by Switching from an Erythropoiesis-Stimulating Agent to a Hypoxia-Inducible Factor Prolyl Hydroxylase Inhibitor in Hemodialysis Patients: A Pilot Study. | Int J Mol Sci. 2023 Aug; 24(16): 12752. (オンライン) | Original Article |
| 73 | Takahashi Y, Morisawa T, Okamoto H, et al. | リハビリテーション科 | Diaphragm Dysfunction and ICU-Acquired Weakness in Septic Shock Patients with or without Mechanical Ventilation: A Pilot Prospective Observational Study. | J Clin Med. 2023 Aug; 12(16): 5191. (オンライン) | Original Article |
| 74 | Sako Y, Hirata T | 産婦人科 | Hysteroscopic management of uterine diverticulum after myomectomy: a case report. | BMC Womens Health. 2023 Aug; 23(1): 452. (オンライン) | Case Report |
| 75 | Ono R, Sakamoto K, Doi T, et al. | 小児科 | Dexamethasone palmitate as an etoposide-free treatment for children with hemophagocytic lymphohistiocytosis after hematopoietic cell transplantation. | Bone Marrow Transplant. 2023 Nov; 58(11): 1286-1288. | Letter |
| 76 | Tsuda Y, Takahashi M, Watanabe F, et al. | 薬剤部 | Population Pharmacokinetic Analysis of Vancomycin in Patients with Solid or Hematological Malignancy in Relation to the Quick Sequential Organ Failure Assessment Scores. | Eur J Drug Metab Pharmacokinet. 2023 Nov; 48(6): 647-655. | Original Article |
| 77 | Mochizuki T, Ryu B, Sato S, et al. | 脳神経外科 | De Novo Radicular Arteriovenous Fistula After Treatment of Spinal Arteriovenous Fistula: A Case Report and Literature Review. | Cureus. 2023 Aug; 15(8): e43348. (オンライン) | Review |
| 78 | Yoshida T, Takahashi O, Suzuki Y, et al. | 産婦人科 | The effectiveness of controlled ovarian stimulation with tamoxifen for patients with estrogen-sensitive breast cancer: A systematic review and meta-analysis. | Reprod Med Biol. 2023 Sep; 22(1): e12543. (オンライン) | Review |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の特定機能病院における所属 | 題名 | 雑誌名・出版年月等 | 論文種別 |
|----|---|-------------------|---|--|------------------|
| 79 | Iida E, Ichihara N, Hifumi T, et al. | 救急科 | Frequency, clinical characteristics, and outcomes of pneumonia in patients with out-of-hospital cardiac arrest undergoing extracorporeal cardiopulmonary resuscitation. | Resusc Plus. 2023 Dec; 16: 100474. (オンライン) | Original Article |
| 80 | Abe K, Nishi H, Okamoto K, et al. | 心臓血管外科 | A Novel Method of Real-Time Assessment for Coronary Artery Anastomosis Skill. | Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2024 Jan; 30(1): 23-00089. (オンライン) | Original Article |
| 81 | Tanemoto Y, Yamada U, Nakayama M, et al. | 心療内科 | Association of illness perception and alexithymia with fatigue in hemodialysis recipients: a single-center, cross-sectional study. | Sci Rep. 2023 Oct; 13(1): 16592. (オンライン) | Original Article |
| 82 | Yamada D, Matsusako M, Kurihara Y | 放射線科 | Review of clinical and diagnostic imaging of the thymus: from age-related changes to thymic tumors and everything in between. | Jpn J Radiol. 2024 Mar; 42(3): 217-234. | Review |
| 83 | Sano M, Narimoto K, Shimbo M, et al. | 泌尿器科 | Leiomyoma of the Prostate Treated via Holmium Laser Enucleation: A Case Report and Literature Review. | Cureus. 2023 Sep; 15(9): e45273. (オンライン) | Review |
| 84 | Shimada T, Ishikawa K, Kawai F, et al. | 感染症科 | Risk factors associated with infection-related mortality of Bacillus cereus bacteremia in hematologic disorders. | Int J Hematol. 2023 Dec; 118(6): 726-730. | Original Article |
| 85 | Nakai T, Fukui S, Sawada H, et al. | リウマチ膠原病センター | Disease-modifying effect and long-term safety of belimumab in patients with systemic lupus erythematosus: A single-center retrospective study. | Lupus. 2023 Nov; 32(13): 1518-1527. | Original Article |
| 86 | Mashimo S, Gilmour S | リハビリテーション科 | Temporal, seasonal, and spatial patterns in fall-related mortality in Japan: Analysis of national vital statistics from 1975 to 2019. | Injury. 2023 Dec; 54(12): 111138. (オンライン) | Original Article |
| 87 | Miyachi Y, Sakiko K, Yokoi T, et al. | 一般・消化器外科 | Rapidly progressing severe coagulopathy and thrombocytopenia in extreme anorexia nervosa patient with small bowel strangulation: A case report. | Int J Surg Case Rep. 2023 Nov; 112: 108985. (オンライン) | Case Report |
| 88 | Nakayama M, Kobayashi S, Kusakabe M, et al. | 腎センター | Tenapanor for peritoneal dialysis patients with hyperphosphatemia: a phase 3 trial. | Clin Exp Nephrol. 2024 Feb; 28(2): 153-164. | Original Article |
| 89 | Shimada G, Nakabayashi R, Komatsu Y | ヘルニアセンター/消化器・一般外科 | Short-term All-cause In-hospital Mortality Prediction by Machine Learning Using Numeric Laboratory Results. | JMA J. 2023 Oct; 6(4): 470-480. | Original Article |
| 90 | Fukui S, Kawaai S, Sawada H, et al. | リウマチ膠原病センター | Upadacitinib for the treatment of adults with active non-radiographic axial spondyloarthritis (nr-axSpA). | Expert Rev Clin Immunol. 2024 Feb; 20(2): 141-153. | Review |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の特定機能病院における所属 | 題名 | 雑誌名・出版年月等 | 論文種別 |
|-----|--|-------------------|--|--|------------------|
| 91 | Mashimo S, Nozaki T, Amaha K, et al. | リハビリテーション科 | Quantitative Assessment of Calf Muscle Volume, Strength, and Quality After Achilles Tendon Rupture Repair: A 1-Year Prospective Follow-up Study. | Am J Sports Med. 2023 Dec; 51(14): 3781-3789. | Original Article |
| 92 | Nakamura T, Nishimura N | 呼吸器内科 | Pulmonary tuberculosis presenting with cluster sign and galaxy sign. | BMJ Case Rep. 2024 Mar; 16(11): e257377. (オンライン) | Case Report |
| 93 | Fujita N, Higuchi H, Yonekura Y | 麻酔科 | MRI of caval compression during left-lateral tilt in singleton and twin pregnancies: A prospective cohort study. | Eur J Anaesthesiol. 2024 Feb; 41(2): 122-128. | Original Article |
| 94 | Deguchi N, Ishikawa K, Tokioka S, et al. | 感染症科 | Relationship between blood culture time to positivity, mortality rate, and severity of bacteremia. | Infect Dis Now. 2024 Mar; 54(2): 104843. (オンライン) | Original Article |
| 95 | Shimbo M, Nojyu K, Yonekura Y, et al. | 泌尿器科 | Computed Tomography Renal Volumetry Better Predicts Postoperative Donor Renal Function in Live Kidney Donor Transplantation than Renal Scintigraphy: A Comparative Study. | Urol Int. 2024 Feb; 108(1): 73-79. | Original Article |
| 96 | Suzuki T, Mizuno A, Yasui H, et al. | 循環器内科 | Scoping Review of Screening and Assessment Tools for Social Determinants of Health in the Field of Cardiovascular Disease. | Circ J. 2024 Mar; 88(3): 390-407. | Review |
| 97 | So C, Matsumoto Y, Imabayashi T, et al. | 呼吸器内科 | Identifying factors causing failure of nodal staging by endobronchial ultrasound-guided transbronchial needle aspiration in non-small cell lung cancer. | Transl Lung Cancer Res. 2023 Nov; 12(11): 2169-2180. | Original Article |
| 98 | Nagai N, Mushiga Y, Ozawa Y | 眼科 | Diabetic choriocapillaris flow deficits affect the outer retina and are related to hemoglobin A1c and systolic blood pressure levels. | Sci Rep. 2023 Dec; 13(1): 22570. (オンライン) | Original Article |
| 99 | Kamiya S, Nishizawa T, Arioka H | 一般内科 | Cervicothoracic sign of mediastinal goitre. | BMJ Case Rep. 2023 Dec; 16(12): e258963. (オンライン) | Case Report |
| 100 | Okano H, Kataoka Y, Sakuraya M, et al. | 救急科 | Efficacy of Remifentanyl in Patients Undergoing Cardiac Surgery: A Systematic Review and Network Meta-Analysis. | Cureus. 2023 Dec; 15(12): e51278. (オンライン) | Review |
| 101 | Nishino T, Endo F, Nakama D, et al. | 泌尿器科 | Holmium laser enucleation of the prostate as a secondary surgery following prostatic urethral lift. | IJU Case Rep. 2024 Jan; 7(1): 34-37. | Case Report |
| 102 | Nakai T, Honda N, Soga E, et al. | リウマチ膠原病センター | A retrospective analysis of the safety of tacrolimus use and its optimal cut-off concentration during pregnancy in women with systemic lupus erythematosus: study from two Japanese tertiary referral centers. | Arthritis Res Ther. 2024 Jan; 26(1): 15. (オンライン) | Original Article |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の特定機能病院における所属 | 題名 | 雑誌名・出版年月等 | 論文種別 |
|-----|--|-------------------|--|--|------------------|
| 103 | Takeishi K, Yamamoto S, Sato Y, et al. | 麻酔科 | Hemolysis Precedes Urine Color Change in Patients Undergoing Open-Heart Surgery on Cardiopulmonary Bypass. | Cureus. 2023 Dec; 15(12): e49971. (オンライン) | Original Article |
| 104 | Murata N, Nishizawa T, Kim Y, et al. | 一般内科 | Hepatic Encephalopathy Caused by Long-Term Amiodarone Use. | Cureus. 2023 Dec; 15(12): e50690. (オンライン) | Case Report |
| 105 | Tsunoda H, Moon WK | 放射線科 | Beyond BI-RADS: Nonmass Abnormalities on Breast Ultrasound. | Korean J Radiol. 2024 Feb; 25(2): 134-145. | Review |
| 106 | Nishizawa T | 一般内科 | Possible cause of abdominal internal oblique muscle hematoma induced by cough. | J Gen Fam Med. 2024 Jan; 25(1): 85. (オンライン) | Letter |
| 107 | Nakayama M, Kabayama S, Miyazaki M | 腎センター | Application of Electrolyzed Hydrogen Water for Management of Chronic Kidney Disease and Dialysis Treatment-Perspective View. | Antioxidants (Basel). 2024 Jan; 13(1): 90. (オンライン) | Review |
| 108 | Adachi A, Yasu T, Enomoto H, et al. | 薬剤部 | Resumption of Regular Drugs in Emergency Patients Admitted to the Intensive Care Unit. | Am J Ther. 2024 Mar; 31(2): e188-e190. (オンライン) | Letter |
| 109 | Yamauchi R, Akiyama S, Mizuno N, et al. | 放射線腫瘍科 | Dosimetric Comparison of 3D Conformal Radiotherapy (3D-CRT), Intensity-Modulated Radiotherapy (IMRT), and Volumetric-Modulated Arc Therapy (VMAT) in Cardiac-Sparing Whole Lung Irradiation. | Cureus. 2023 Dec; 15(12): e51047. (オンライン) | Original Article |
| 110 | Nakayama M | 腎センター | Why should we use a low sodium dialysis solution for peritoneal dialysis? | Perit Dial Int. 2024 Mar; 44(2): 89-97. | Review |
| 111 | Isokawa S, Hifumi T, Hirano K, et al. | 救急科 | Risk factors for bleeding complications in patients undergoing extracorporeal cardiopulmonary resuscitation following out-of-hospital cardiac arrest: a secondary analysis of the SAVE-J II study. | Ann Intensive Care. 2024 Jan; 14(1): 16. (オンライン) | Original Article |
| 112 | Shirasaki K, Hifumi T, Sekiguchi M, et al. | 救急科 | Long-term psychiatric disorders in families of severe COVID-19 patients. | Acute Med Surg. 2024 Jan; 11(1): e926. (オンライン) | Original Article |
| 113 | Suzuki T, Rewley J, Sugibuchi K, et al. | 循環器内科 | Feedbacks Using behavior economic theories on Step counts in Cardiovascular Disease Patients (FOOTSTEPS) Using Novel Daily Step Counts Retrieving System. | Int Heart J. 2024 Jan; 65(1): 100-108. | Original Article |
| 114 | Nakamura T, Ishikawa K, Murata N, et al. | 呼吸器内科 | Empyema necessitans caused by methicillin-resistant Staphylococcus aureus: a case report and literature review. | BMC Infect Dis. 2024 Feb; 24(1): 157. (オンライン) | Review |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の特定機能病院における所属 | 題名 | 雑誌名・出版年月等 | 論文種別 |
|-----|--|-------------------|---|---|------------------|
| 115 | Ishikawa K, Hasegawa R, Furukawa K, et al. | 感染症科 | Recurrent Bacillus subtilis Var. Natto Bacteremia and Review of the Literature on Bacillus subtilis: The First Case Report. | Am J Case Rep. 2024 Feb; 25: e942553. (オンライン) | Review |
| 116 | Okano H, Yamamoto R, Iwasaki Y, et al. | 救急科 | External validation of the HACOR score and ROX index for predicting treatment failure in patients with coronavirus disease 2019 pneumonia managed on high-flow nasal cannula therapy: a multicenter retrospective observational study in Japan. | J Intensive Care. 2024 Feb; 12(1): 7. (オンライン) | Original Article |
| 117 | Morimoto M, Yokoya Y, Yoshida K, et al. | 血液内科 | Predictive Model for Occurrence of Febrile Neutropenia after Chemotherapy in Patients with Diffuse Large B-Cell Lymphoma: A Multicenter, Retrospective, Observational Study. | Hematol Rep. 2024 Feb; 16(1): 76-88. | Original Article |
| 118 | Nakai T, Honda N, Soga E, et al. | リウマチ膠原病センター | Effect of remission, clinical remission with active serology, and glucocorticoid dosage on the pregnancy outcome of pregnant patients with systemic lupus erythematosus. | Arthritis Res Ther. 2024 Mar; 26(1): 63. (オンライン) | Original Article |
| 119 | Mochizuki T, Ryu B, Shima S, et al. | 脳神経外科 | Comparison of efficacy between clazosentan and fasudil hydrochloride-based management of vasospasm after subarachnoid hemorrhage focusing on older and WFNS grade V patients: a single-center experience in Japan. | Neurosurg Rev. 2024 Mar; 47(1): 113. (オンライン) | Original Article |
| 120 | Shirasaki K, Hifumi T, Nakanishi N, et al. | 救急科 | Postintensive care syndrome family: A comprehensive review. | Acute Med Surg. 2024 Mar; 11(1): e939. (オンライン) | Review |
| 121 | Sueyoshi K, Merlini M, Otsubo K, et al. | 呼吸器外科 | Zero-leak prediction during major lung resection aiming for minimal chest drainage duration: a retrospective analysis. | J Cardiothorac Surg. 2024 Mar; 19(1): 120. (オンライン) | Original Article |
| 122 | Yamanaka S, So C, Nishimura N, et al. | 内科 | Successful thoracoscopic operative approach for refractory pneumothorax in interstitial lung disease under local anaesthesia. | Respirol Case Rep. 2024 Mar; 12(3): e01331. (オンライン) | Case Report |
| 123 | Nishizawa T, Ishizuka K, Otsuka Y, et al. | 一般内科 | Writing Case Reports Can Improve Seven Components in Clinical Reasoning. | Int Med Case Rep J. 2024 Mar; 17: 195-200. | Others |
| 124 | Higuchi N, Sako Y, Shiota K, et al. | 産婦人科 | Cervical Stenosis After Hysteroscopic Surgery for Cesarean Scar Disorder. | Cureus. 2024 Mar; 16(3): e56922. (オンライン) | Case Report |

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の特定機能病院における所属 | 題名 | 雑誌名・出版年月等 | 論文種別 |
|-----|---|-------------------|--|--|------------------|
| 125 | Yumita Y, Niwa K | 循環器内科 | Beyond Aortic Diameter for the Management of Thoracic Aortic Aneurysm: Multidimensional Data for Multidisciplinary Discussion. | JACC Adv. 2023 Oct; 2(8): 100636. (オンライン) | Others |
| 126 | Shiratori Y, Niikura R, Nishida T, et al. | 消化器内科 | Effect of continuation and discontinuation of antithrombotic agents after lower gastrointestinal bleeding. | Progress of Digestive Endoscopy. 2023 Dec; 103(1): 40-47. | Original Article |
| 127 | Ito R, Nishizawa T, Arioka H | 一般内科 | Inverted V sign due to subacute combined spinal cord degeneration. | Journal of Hospital General Medicine. 2023 May; 5(3): 109-110. | Others |
| 128 | Murata M, Noto H, Hayashi K | 内分泌・代謝科 | Effects of glycemic control on COVID-19 outcomes in patients with diabetes mellitus. | 糖尿病・内分泌プラクティスWeb. 2024 Feb; 2(1): 1-7. | Original Article |

計 128 件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の特定機能病院における所属 | 題名 | 雑誌名・出版年月等 | 論文種別 |
|----|-------|-------------------|----|-----------|------|
| 1 | | | | | |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| ～ | | | | | |

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

| | |
|--|--|
| ① 倫理審査委員会の設置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |
| ② 倫理審査委員会の手順書の整備状況 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |
| ・ 手順書の主な内容 「研究倫理審査取扱規程」、「研究倫理審査委員会標準業務手順書」：委員会設置の要件、責務、委員会の構成、会議の成立要件、運営、記録の保存、審査区分フォロー 等 | |
| ③ 倫理審査委員会の開催状況 | 年 24 回 |

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

| | |
|--|--|
| ① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |
| ② 利益相反の管理に関する規定の整備状況 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |
| ・ 規定の主な内容 「学校法人聖路加国際大学利益相反マネジメント規程」 ：マネジメントの目的、定義、対象、判断基準、手続き 等 「学校法人聖路加国際大学における研究に係る利益相反管理規程」 ：研究における利益相反管理の目的、定義、報告方法、委員会の設置・構成 等 「臨床研究法における利益相反管理に関する標準業務手順書」 ：臨床研究法に基づく利益相反管理の目的、適用範囲、管理体制 等 | |
| ③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況 | 年 2 回 |

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

| | |
|--|-------|
| ① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況 | 年 2 回 |
| ・ 研修の主な内容 1. 初級者（ベーシックコース）：e-learning（年1回）、2023年度受講者：356名。 2. 初級者以外（アドバンストコース）：e-learning（年1回）、2023年度受講者：508名。 | |

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

新専門医制度に基づく研修プログラム
専攻する診療科の研修をはじめ、病棟診療担当業務・救急外来診療業務など、臨床医として幅広い経験を積み、他科との有機的な連携をめざしたチーム医療を実践できる研修を実施しています。また、研究管理部・教育研修部等の組織を有し、シミュレーション教育や臨床研究をサポートする研修環境を整備しています。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

| | |
|-------------|-----|
| 上記研修を受けた医師数 | 88人 |
|-------------|-----|

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

| 研修統括者氏名 | 診療科 | 役職等 | 臨床経験年数 | 特記事項 |
|---------|--------|------|--------|------|
| 阿部 世紀 | 麻酔科 | 部長 | 29年 | |
| 鹿股 直樹 | 病理診断科 | 部長 | 33年 | |
| 平田 哲也 | 産婦人科 | 部長 | 25年 | |
| 北村 信人 | 整形外科 | 部長 | 31年 | |
| 板東 徹 | 外科 | 部長 | 36年 | |
| 遠藤 文康 | 泌尿器科 | 部長 | 31年 | |
| 松井 瑞子 | 形成外科 | 部長 | 36年 | |
| 小澤 美和 | 小児科 | 部長 | 36年 | |
| 栗原 泰之 | 放射線科 | 部長 | 40年 | |
| 大谷 典生 | 救急科 | 部長 | 26年 | |
| 新井 達 | 皮膚科 | 部長 | 33年 | |
| 輿水 純子 | 眼科 | 管理医長 | 20年 | |
| 長浜 正彦 | 内科 | 医長 | 25年 | |
| 有岡 宏子 | 総合診療 | 部長 | 38年 | |
| 大内 衆衛 | 精神科 | 副医長 | 14年 | |
| 川島 明次 | 脳神経外科 | 部長 | 30年 | |
| 中条 恭子 | 耳鼻咽喉科 | 部長 | 35年 | |
| 森 信好 | 感染症科 | 医長 | 19年 | |
| 小澤 靖弘 | 歯科口腔外科 | 部長 | 37年 | |

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

| |
|---|
| ① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意） |
| <ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数 |
| ② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意） |
| <ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数 |
| ③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況 |
| <ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数 |

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

| | | |
|---------|--------------|-------|
| 計画・現状の別 | 1. 計画 | 2. 現状 |
| 管理責任者氏名 | 院長 石松 伸一 | |
| 管理担当者氏名 | 病院事務部長 渡辺 明良 | |

| | | 保管場所 | 管理方法 | |
|------------------|--------------------|-------------------|--|--|
| 診療に関する諸記録 | 規則第二十二條の三第二項に掲げる事項 | 病院日誌 | 総務課 | |
| | | 各科診療日誌 | 電子カルテ | |
| | | 処方せん | 電子カルテ | |
| | | 手術記録 | | |
| | | 看護記録 | | |
| | | 検査所見記録 | | |
| | | エックス線写真 | | |
| | | 紹介状 | | |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第二十二條の三第三項に掲げる事項 | 従業者数を明らかにする帳簿 | 人事課人事システム | |
| | | 高度の医療の提供の実績 | 医事課 | |
| | | 高度の医療技術の開発及び評価の実績 | 院内ネットワーク 研究企画管理部 | |
| | | 高度の医療の研修の実績 | 教育研修部、人事課 | |
| | | 閲覧実績 | 医事課 | |
| | | 紹介患者に対する医療提供の実績 | 電子カルテ内 | |
| | 規則第一條の十一第一項に掲げる事項 | 規則第一條の十一第一項に掲げる事項 | 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿 | 電子カルテ内 |
| | | | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 教職員ポータル>>QIセンター医療安全管理室 |
| | | | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | Teams>>医療安全管理委員会 |
| | | | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 教職員ポータル>>QIセンター |
| | | | 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | インシデント報告システム ファントルくん、教職員ポータル>>QIセンター医療安全管理室 |

| | | 保管場所 | 管理方法 | |
|---|-----------------------------|---|-----------------------|------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項 | 院内感染対策のための指針の策定状況 | 教職員ポータル >>方針・手順 | 電子媒体 |
| | | 院内感染対策のための委員会の開催状況 | Teams>>感染予防委員会 | |
| | | 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 教職員ポータル>>QIセンター | |
| | | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況 | Teams>>感染予防委員会 | |
| | | 医薬品安全管理責任者の配置状況 | 人事課人事システム | 発令 |
| | | 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 教職員ポータル>>QIセンター | 電子媒体 |
| | | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | 教職員ポータル>>薬剤部 | |
| | | 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 教職員ポータル>>薬剤部>>ニュースレター | |
| | | 医療機器安全管理責任者の配置状況 | 人事課人事システム | 発令 |
| | | 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 受講する各部署 | 紙媒体 |
| 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | 臨床工学室部門システム、各部署点検記録 | 電子媒体および紙媒体 | | |
| 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 使用する各部署 | 電子媒体 | | |

| | | 保管場所 | 管理方法 | |
|------------------|--|---|--|------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項 | 医療安全管理責任者の配置状況 | 教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院QIセンター運営規程」 | 電子媒体 |
| | | 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 人事課人事システム | 発令 |
| | | 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 | Teams>>薬剤マネジメント委員会 | 電子媒体 |
| | | 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況 | 教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院インフォームド・コンセント委員会運営規程」 | |
| | | 診療録等の管理に関する責任者の選任状況 | 教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院医療記録の運用管理規程」 | |
| | | 医療安全管理部門の設置状況 | 教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院QIセンター運営規程」 | |
| | | 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況 | 教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院高難度未承認医療評価室運営規程」 | |
| | | 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況 | 教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院臨床倫理委員会運営規程」「薬剤マネジメント委員会運営規程」 | |
| | | 監査委員会の設置状況 | 教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院医療安全監査委員会規程」 | |
| | | 入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況 | インシデント報告システムファントルくん | |
| | | 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況 | 院内ネットワーク>>QIセンター医療安全管理室 | |
| | | 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | 教職員ポータル QIセンター>>医療安全管理室>>「聖路加国際病院安全管理指針」 | |
| | | 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況 | 教職員ポータル 法人事務局>>規程集「医療安全管理に関する内部通報規程」 | 電子媒体 |

| | | | |
|--|--|-----------------------|------|
| | 職員研修の実施状況 | 教職員ポータル>>QIセンター | 電子媒体 |
| | 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況 | 教職員ポータル>>QIセンター | |
| | 管理者が有する権限に関する状況 | 教職員ポータル 法人事務局>>規程集 | |
| | 管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況 | 教職員ポータル 法人事務局>>規程集 | |
| | 開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況 | 教職員ポータル 法人事務局>>規程集 | |

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

| | |
|---|--------------------------|
| 計画・現状の別 | 1. 計画 ② 現状 |
| 閲覧責任者氏名 | 病院事務部長 渡辺 明良 |
| 閲覧担当者氏名 | 医事課マネジャー 利根川崇、久保田純子、岡田太郎 |
| 閲覧の求めに応じる場所 | 東京都中央区明石町9番1号 聖路加国際病院内 |
| 閲覧の手続の概要 「聖路加国際病院諸記録閲覧規程」に基づいて、閲覧申請書により、閲覧責任者に申請を行う。 | |

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

| | | | |
|-----------|--------|---|---|
| 前年度の総閲覧件数 | 延 | 0 | 件 |
| 閲覧者別 | 医師 | 延 | 件 |
| | 歯科医師 | 延 | 件 |
| | 国 | 延 | 件 |
| | 地方公共団体 | 延 | 件 |

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|-------|
| ① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 有・無 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： 1. 安全管理のための組織体制 2. 医療安全管理委員会 3. 安全管理のための職員研修 4. 院内報告制度 5. 事故発生時の対応 6. インフォームド・コンセント 7. 患者からの苦情・相談 8. 高難度新規医療技術を用いた医療の提供 9. 外部監査 10. その他医療安全の推進 | |
| ② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ） ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： 1. 重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析 2. 1の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知 3. 2の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直し 4. 事故その他の医療安全管理部門において取り扱うことが必要なものとして院長が認める事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認、患者又はその家族への説明、当該事象の発生の原因の究明の実施その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく職員への必要な指導 5. 医療安全管理部門による医療法施行規則第 9 条の 20 の 2 第 9 項イに定める事項の報告の実施の状況の確認及び確認結果の院長への報告 6. 5に規定する実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導 | |
| ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 年 2 回 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）：いずれもe-learningで開講 1. 院内報告制度、匿名で疑義や疑念を表明する仕組み、予期せぬ死亡と医療事故調査制度、スタットコール、ダブルチェック、IPSG（国際患者安全目標）、 2. チームSTEPPS | |

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

「医療安全に係る院内報告制度と事故等事案の対応に関する方針・手順」に則り、職員はインシデント発生時はインシデント報告システムを介して医療安全管理室に報告する。患者影響レベル3b以上の場合は、インシデント報告システムでの報告に加え、医療安全管理者またはQIセンター医療安全管理室に電話等で連絡する。

インシデントの詳細は、医療安全管理者またはインシデント事例小委員会の委員や医療安全推進者によってヒアリングされる。医療安全管理室は、ヒアリングした内容について必要に応じて医療安全推進者と検討したうえで、インシデント事例小委員会等で報告し、再発防止策や改善策についての検討と事故等事案と警鐘事例への該当についての確認を行う。

医療安全管理室は、インシデント事例小委員会等で検討された再発防止策や改善策を、報告者、関係者、その所属長及び医療安全推進者にフィードバックをする。医薬品、医療機器、放射線に関する事象・事例は各安全管理責任者と共有し、必要に応じて対応を依頼する。医療安全管理室は再発防止策や改善策が追記された報告書を保管する。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|--------|
| ① 院内感染対策のための指針の策定状況 | 有・無 |
| <p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療関連感染予防に関する基本的考え方 2. 医療関連感染予防に関する組織とその役割 <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染予防委員会 2) 感染予防チーム 3) 抗菌薬適正使用支援チーム 4) QI センター感染管理室 3. 医療関連感染の発生に関する報告と対応 4. 感染予防に関する方針と手順（閲覧に関する内容を含む） 5. 感染予防に関する研修 | |
| ② 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 年 12 回 |
| <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療関連感染予防に関わる方針と手順 2. 医療関連感染発生状況のモニタリング、原因分析、改善および周知 3. 医療関連感染対策の実施状況のモニタリングと改善 4. 分離菌の薬剤感受性状況の確認と抗菌薬適正使用支援 5. 職業感染リスクのモニタリングと対策 6. 適切な洗浄・消毒・滅菌に関する事項 7. 適切な医療環境管理に関する事項 8. 医療関連感染予防に関する研修 9. 感染予防に関する自治体および医療機関との連携 10. 新興感染症への緊急対応 11. 立ち入り検査・第三者病院機能評価に関する事項 12. その他の医療関連感染に係る事項 | |
| ③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 年 2 回 |
| <p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>全職員対象の研修（e-learning）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 標準予防策、感染経路別予防策、抗菌薬適正使用 2. 医療器具を介した感染予防、職業感染予防、その他の感染対策 <p>その他の研修</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新採用者オリエンテーション 2. 感染予防リンクスタッフ講習 3. 研修医他職種研修 4. 感染予防レベルアップ研修 | |

- 5. 静脈注射クラス
- 6. 看護補助者クラス
- 7. ボランティアクラス

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - 新型コロナウイルス感染症の医療関連感染予防のための取り組み
 - 薬剤耐性菌および*C. difficile*陽性患者発生状況の把握およびフィードバック
 - 薬剤耐性菌および*C. difficile*陽性患者に対する接触予防策およびその他の伝播防止の取り組み (保菌のハイリスク群を対象としたスクリーニング検査や退院清掃後のUVC照射等)
 - 抗菌薬の使用状況の把握とコンサルテーション
 - 手指衛生実施率の把握、評価、フィードバック、実施率向上のための取り組み
 - 医療器具関連感染・手術部位感染発生率の把握、フィードバックおよび予防のための取り組み
 - 結核感染予防のための早期診断および隔離のための取り組み
 - 針刺し・切創・粘膜創傷汚染発生状況の評価と予防のための取り組み
 - 清掃の品質評価と改善のための取り組み
 - 建築・改築時の感染リスク評価と予防のための取り組み
 - 感染性廃棄物の安全な管理に関する取り組み
 - ワクチンで予防可能な感染症に対する免疫獲得のための取り組み など

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|--------|
| ① 医薬品安全管理責任者の配置状況 | 有・無 |
| ② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： ・ 全職員対象（e-learning） <ul style="list-style-type: none"> - ハイアラート薬の定義 - ハイアラート薬のストック薬の保管場所、保管方法 - 高濃度電解質の保管部署の制限 - 高濃度電解質の調剤・処方・投与に関する制限 ・ 新入職員・中途入職員対象（講義） <ul style="list-style-type: none"> - 医師 <ul style="list-style-type: none"> 処方について（廃棄薬・麻薬管理を含む）、処方・薬剤情報検索について - 看護師 <ul style="list-style-type: none"> ハイアラート薬の正しい取り扱いと管理、ストック薬を適切に使用するための注意点 ・ 看護師（講義） <ul style="list-style-type: none"> - 看護管理研修プログラム 静脈注射研修 | 年 11 回 |
| ③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 （ 有・無 ） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> ① 医薬品安全管理責任者による定期巡回 <ul style="list-style-type: none"> - 薬剤部門や病棟・外来部門において、医薬品安全管理責任者による巡回を定期的に実施。 - 医薬品の取り扱い・保管管理状況が手順書に沿って適正に行われているかを確認する。 - 不履行や改善必要事項などに対し、当該部署の医薬品管理部署責任者にフィードバックをし、改善する。 ② 病棟薬剤師による病棟ストック薬保管管理状況の確認 <ul style="list-style-type: none"> 1か月に1回、病棟・診療科担当薬剤師が22項目について実施状況を確認する。 | |
| ④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <ul style="list-style-type: none"> - レムデシビル＋ニルマトレルビル/リトナビル併用療法の免疫不全を伴うCOVID-19に対する保険適応外使用について ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> - PMDA等から配信される医薬品の安全性に関する情報を直ちに入手し、速やかに伝達できる体制を取っている - 発生した医薬品の副作用を医薬品情報室で一元管理している。薬剤マネジメント委員会で報告後、病院内の職員にも周知している - 副作用被害救済制度に関するPMDA出前講座を開催し病院および保険薬局の薬剤師の理解度向上 | |

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|--------|
| ① 医療機器安全管理責任者の配置状況 | 有・無 |
| ② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 年 91 回 |
| <p>・ 研修の主な内容：</p> <p><u>対象者</u> 新規医療機器導入時使用予定者に対し、また初めて医療機器を使用する職員に対して。特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器6分野に対して。</p> <p><u>研修内容</u> 医療機器の有効性・安全性に関する事項、医療機器の使用法に関する事項、医療機器の保守点検に関する事項、医療機器の不具合等が発生した場合の対応(施設内での報告、行政機関への報告等)に関する事項、医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項</p> | |
| ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | |
| <p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>年度初めの医療機器安全管理委員会にて、医療機器の年間計画表を医療機器安全管理責任者が承認する。</p> <p>厚労省が定めるクラス分類で定期点検、日常点検（故障時対応）を実施する。 <u>定期点検（クラスⅢ・Ⅳ、一部Ⅱ）</u> 添付文書や取扱説明書に沿って実施。必要時には業者と相談し点検内容を検討。医療機器ごとに点検報告書を作成し保管する。点検年月、次回点検予定月が記載されている定期点検済シールを医療機器に貼り付け、当該医療機器の点検状況が使用者に分かるようにする。 <u>日常点検・故障時対応（クラスⅠ・Ⅱ）</u> 院内に複数代替機があり、不具合が発生した場合にすぐに交換ができる機器とする。また、使用前・使用后点検など日常点検を実施し基本性能や安全性の確認を行う。</p> <p>年度末の医療機器安全管理委員会にて、医療機器の点検状況を医療機器安全管理責任者が確認する。</p> | |
| ④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>✓ 乳癌術後患者の乳頭乳輪再建への国内未承認機器の使用（Grand RIZIN Cartridge Rライナー、Click tip needle）</p> <p>✓ 膝窩動脈以遠の狭窄/閉塞による重症下肢虚血患者に対する、冠動脈用薬剤溶出性ステントの適応外使用</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> | |

「医療機器安全管理に関する方針・手順」において、医療機器に係る安全性情報等の収集、添付文書等の整理および管理、医療機器の不具合が発生した場合の対応、医療機器のリコールが発生した場合の対応を定めている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

| | |
|---|---------------|
| ① 医療安全管理責任者の配置状況 | 有・無 |
| <p>・ 責任者の資格 (医師・歯科医師) 責任者：統括副院長、QIセンター長 (医師)</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>別表1「医療安全管理体制」を参照</p> | |
| ② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 有 (1 名) ・ 無 |
| <p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>院内組織 (薬剤マネジメント委員会) により、厚生労働省、東京都およびPMDA から通知される医薬品に関する情報を収集・集約し、必要に応じてその使用に関わる部門、医師、薬剤師、看護師等に直接、あるいはメール等で周知し、安全確保に最善を尽くしている。 また、患者における健康被害が最小限となるよう、回収などの対応を院内および地域保健薬局とも連携協働し、迅速に行っている。</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>院内組織 (高難度未承認医療評価室、未承認新規医薬品等評価委員会) にて院内使用状況の把握及び安全使用の観点より、未承認薬使用の申請の手続きならびに審査を実施している。 また、医薬品安全管理責任者から指名された担当者が高難度未承認医療評価室と連携することで、審査結果や使用状況の把握をしている。</p> <p>・ 担当者の指名の有無 (有・無)</p> <p>・ 担当者の所属・職種： (所属：薬剤部 ， 職種：薬剤師)</p> | |
| ④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況 | 有・無 |
| <p>・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： 「聖路加国際病院インフォームド・コンセント委員会運営規程」、「インフォームド・コンセントに関する方針・手順」に基づき、インフォームド・コンセントの実施状況について確認している。診療録をもとにサンプリング監査し、その結果をインフォームド・コンセント委員会、部長・管理医長</p> | |

会に報告し、院内規程を遵守した適切な説明等を実施するよう指導・助言している。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

初診時記録記載率、毎日の記録記載率、手術レコード 24 時間以内作成率、手術レコード出血量記載欄記載率、手術レコード検体名・検体数記載欄記載率、研修医の記載に対する指導医の追記率、退院サマリー作成率、複写による記載（コピー&ペースト）率、略語使用率などを定期的に監査し、医師全体への周知、診療科・個別の医師へのフィードバックを行っている。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

・所属職員：専従（3）名、専任（1）名、兼任（3）名

うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（3）名

うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

うち看護師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（ ）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

1. 医療安全管理のための指針の策定
2. 医療安全管理委員会の運営
3. 医療に係る安全管理のための職員研修の実施
4. 事故その他の医療安全管理部門において取り扱うことが必要なものとして管理者が認める事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認、患者またはその家族への説明、当該事象の発生の原因の究明の実施その他の対応の状況の確認および当該確認の結果に基づく従業者への必要な指導
5. 医療安全管理に係る連絡調整
6. 医療安全の確保のための対策の推進（プロアクティブな活動を含む）
7. 医療安全の確保のための診療内容の現状把握並びに医療安全に関する職員の意識向上およびその状況確認
8. 各部門の医療安全対策の実施状況の評価に基づいた、医療安全確保のための業務改善計画書作成および、それに基づく医療安全対策の実施状況の評価とその記録
9. 医療安全管理者の業務および、医療安全管理室の活動実績の記録
10. 医療安全対策に係る取り組みの評価等を目的とした週1回程度の定期的なカンファレンスの開催
11. 入院患者の死亡の事実および死亡前の状況の確認、入院患者の死亡以外の場合で通常の経過では必要がない処置または治療が必要になったものとして病院が定める水準以上の事象が発生したときの当該事象の発生の事実および発生前の状況の確認および院長への報告
12. 院内における合併症の発症状況の確認
13. 年に1回以上の医療安全管理改善を目的とする他院の職員との相互訪問、評価、技術的助言の交換
14. 定期的な院内巡回による各部門の医療安全対策の実施状況の把握・分析と、医療安全確保のために必要な業務改善等の具体的な対策の推進
15. 各部門における医療安全推進者への支援
16. 患者サービス課クライアントサービス室との密接な連携による医療安全対策に係る患者・患者家族からの苦情・相談に適切に応じる体制の確保

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 2 件）、及び許可件数（ 2 件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 - 高難度新規医療技術の提供の適否等について高難度新規医療技術評価委員会に意見を求める。
 - 上記委員会の意見を踏まえ、高難度新規医療技術の提供の適否等についての評価・決定を行う。
 - 提供された高難度新規医療技術の実施状況や遵守状況を確認する。
 - 提供の適否を決定した時及び上記状況を確認した時に、その内容について院長に報告する。
 - 高難度新規医療技術の提供体制の改善、技術の停止について院長に提言する。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 8 件）、及び許可件数（ 8 件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 - 未承認新規医薬品等の使用の適否等について未承認新規医薬品等評価委員会に意見を求める。
 - 上記委員会の意見を踏まえ、未承認新規医薬品等の使用の適否等についての評価・決定を行う。
 - 使用された未承認新規医薬品等の使用状況や遵守状況を確認する。
 - 使用の適否を決定した時及び上記状況を確認した時に、その内容について院長に報告する。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ・ 無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 507 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 92 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
医療安全管理室が全死亡症例と特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象を診療録で確認し、検討のうえ、病院長および医療安全管理委員会に報告かつ検証をしている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：順天堂医院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：順天堂医院）・無）
- ・技術的助言の実施状況

令和5年10月17日に立入、10月31日に受け入れを行った。次の3点の助言をいただいた。

- ①日本医療機能評価機構には、発生日から原則として2週間以内に報告することを検討すること
 - ②高難度新規医療技術又は未承認新規医薬品等を用いた医療に対する実施後のモニタリングの期間を決定し、実施することを検討すること
 - ③医療安全監査委員会の公表について、取り組み状況も含めて公表すること、職員への研修内容に医療安全監査委員会も含めることを検討すること
- 助言を受け、次のように改善に取り組んでいる。
- ①改善策の検討までに時間を要する場合でも、今後は第一報として2週間以内に報告するようにし、11月以降に発生した10事例の平均報告日数は12.3日に改善した
 - ②高難度新規医療技術および未承認新規医薬品等について、モニタリングが必要な症例数と期間・頻度について検討を行っている。今後は医療安全管理委員会で確認し、規程の改定と院内へのアナウンスを予定している。
 - ③2023年度に開催した監査委員会は、HP上で取り組み状況の公表も行った。2024年4月に開講した医療安全に関する職員研修には医療安全監査委員会に関する内容を含めた。今後も毎回内容を含めるようにする。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者相談窓口を設置し、医療安全等に関する要望・訴えを含む患者・患者家族等からの相談を受けている。患者が病院に対する各種要望・意見を投書するご意見箱と患者相談窓口寄せられた相談内容を患者サービス課が集計・分類・状況確認・対応方針の検討を行い、全件を関係者に情報共有すると共に、内容に応じてご意見対応ミーティングにて、管理者出席のもと、対応方針を決定している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

新規採用者・中途入職者・復職者に対して医療安全、感染管理、医薬品安全管理、医療機器安全管理に関する院内研修と理解度確認テストを実施。

さらに全職員に対して、医療安全、感染管理、医薬品安全管理、医療機器安全管理に関する e-learning を通年開講し、全職員が年 2 回以上受講することとしている。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

① 院内研修

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を含む、院内の全職員に対して、医療安全、感染管理、医薬品安全管理、医療機器安全管理に関する e-learning を通年開講し、全職員が年 2 回以上受講することとしている。

② 院外研修

管理者 (石松) 特定機能病院管理者研修 受講 (2024 年 1 月 26 日)

医療安全管理責任者 (服部) 特定機能病院管理者研修 受講 (2024 年 1 月 26 日)

医薬品安全管理責任者 (後藤) 特定機能病院管理者研修 受講 (2024 年 2 月 6 日)

医療機器安全管理責任者 (阿部) 特定機能病院管理者研修 (初回用) 受講 (2023 年 12 月 4 日)

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

令和3年12月20日—24日 Joint Commission International 認定

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院 HP にて公開

・ 評価を踏まえ講じた措置

評価：

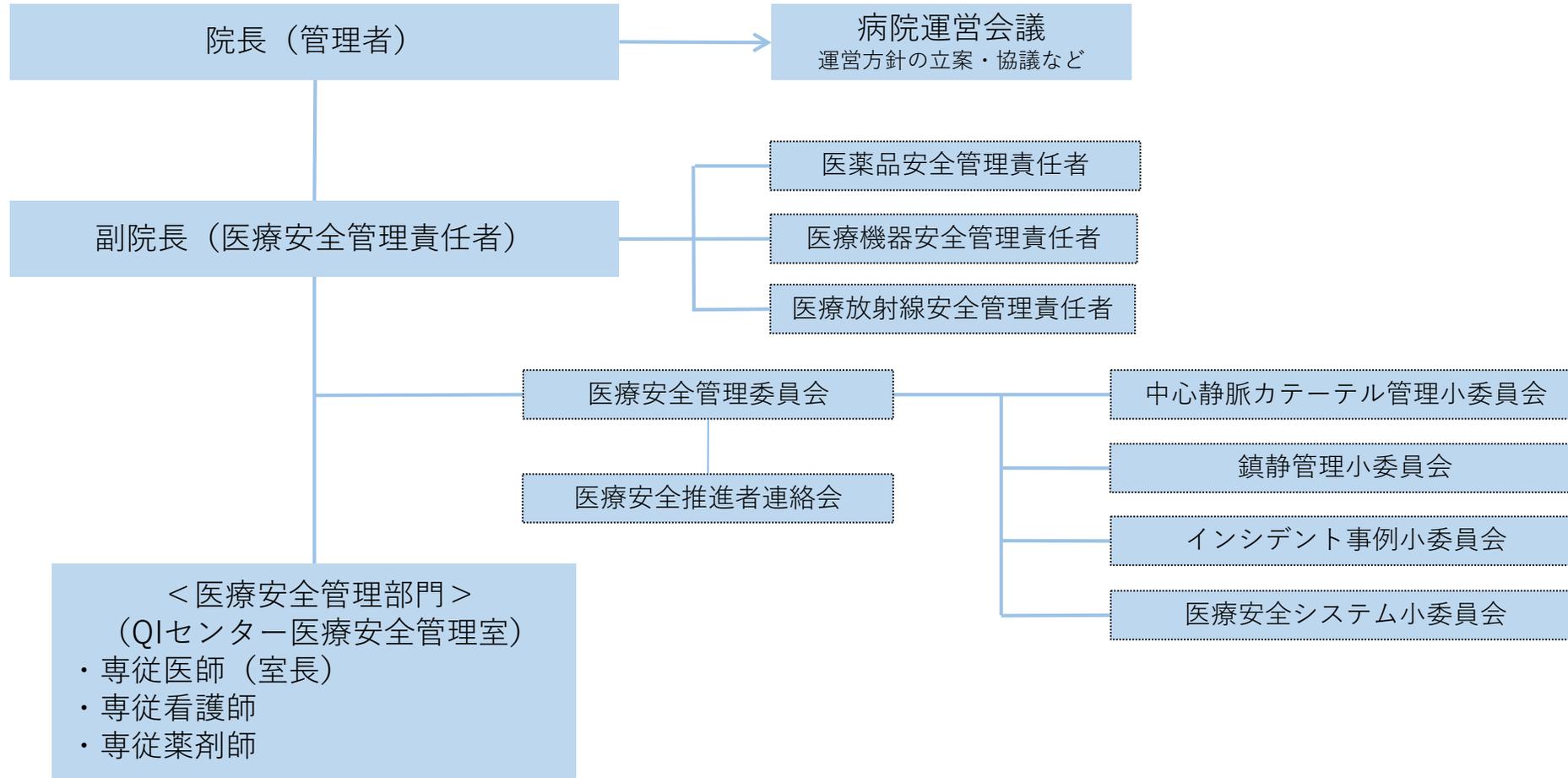
- ①小児・新生児・3階手術室等の救急カートの内容・運用が標準化されていない。
- ②JCIでは同意書に書くべき項目を8つ定めているが、審査時に確認した同意書では6項目しか書かれていなかった。
- ③中央滅菌室、内視鏡室で器材洗浄において耐貫通性の手袋を着用していない。

措置：

- ①産科領域を含めた成人・小児・新生児用の救急カートは、内容および管理方法含め、全て救急・集中治療部門運営委員会の管理下におき、原則として統一した内容とし、中央管理を行う。内容物・管理方法の決定・承認も救急・集中治療部門運営委員会で行い、「救急カートに関する方針・手順」に明記し、院内関係者に周知した。
- ②同意書に書くべき8つの項目を網羅した「雛形」を用いた説明・同意文書に移行することを、業務通達の発信によって院内に周知した。2023年3月31日を締め切りとして、新しい雛形を用いた説明・同意文書移行申請がなされ、現在IC委員会にて査読を行い順次電子カルテに登録を進めているところである。新しい雛形を用いた説明・同意文書に移行しなかった文書は、2024年9月に登録削除をする。
- ③耐穿破・切創および耐薬剤性が担保された製品を導入した。

(注) 記載時点の状況を記載すること

医療安全管理体制



規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

- ・ 基準の主な内容

聖路加国際病院院長任用規程より

(院長の資格)

第2条 院長は、人格高潔にして学識に富み、病院運営の方針を実現する医療面の責任者であるとともに、理事会の重要な一員として、法人の経営に参画するに相応しい者でなければならない。

2 院長は、聖路加国際大学学長を兼任できないものとする。

(院長候補者要件)

第8条 院長の候補者は以下の基準を満たした者とする。

- (1) 聖路加国際病院（以下「病院」という）の理念を踏まえたキリスト教信徒であること。ただし、当該候補者がキリスト教信徒でない場合は、キリスト教精神を尊重する者であること。
- (2) 日本国内の医師免許を有し、保険医の登録を受けている者であること。
- (3) 医療の安全の確保のため、医療安全管理業務の経験を有し、患者安全を第一に考える姿勢及び能力を有している者であること。
- (4) 病院の適正な管理運営に必要な資質及び能力、ならびに病院内外での組織管理経験を有している者であること。
- (5) 高度医療の提供、高度医療技術の開発及び評価、高度医療に関する研修等、病院が行う医療およびその発展にリーダーシップを発揮できる者であること。
- (6) 医療提供と安定的な経営とのバランスを考えた、健全で全体最適な病院経営を担える者であること。

- ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ）

- ・ 公表の方法：病院ホームページにて公表

（病院紹介＞情報公開＞聖路加国際病院院長任用規程・聖路加国際病院院長任用細則）

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

| 前年度における管理者の選考の実施の有無 | | | | 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 |
|--|----|---------------|------|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 | | | | |
| 管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由 | | | | |
| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 選定理由 | 特別の間係 |
| | | | | 有・無 |

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための
合議体の設置及び運営状況

| 合議体の設置の有無 | | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 | |
|--|---------------|--|-------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 病院運営会議で運営方針の立案・協議、経営管理・管理の実施に関する審議を行っている。 (聖路加国際病院 病院運営会議規程第2条) ・ 審議の概要の従業者への周知状況 病院管理協議会、部長管理医長会、事務連絡協議会など各種会議で周知。 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無) ・ 公表の方法：病院ホームページにて公表 (病院紹介>情報公開>病院運営会議規程) ・ 外部有識者からの意見聴取の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無) 理事会、評議員会、常任理事会で外部有識者からの意見を聴取している。 | | | |
| 合議体の委員名簿 | | | |
| 氏名 | 委員長 (○を付す) | 職種 | 役職 |
| 石松 伸一 | ○ | 医師 | 院長 |
| 服部 一紀 | | 医師 | 副院長 (医療安全管理責任者兼務) |
| 有岡 宏子 | | 医師 | 副院長 |
| 板東 徹 | | 医師 | 副院長 |
| 北村 信人 | | 医師 | 副院長 |
| 阿部 恒平 | | 医師 | 医療機器安全管理責任者 |
| 栗原 泰之 | | 医師 | 医療放射線安全管理責任者 |
| 鈴木 千晴 | | 看護師 | 看護部長 (副院長兼務) |
| 後藤 一美 | | 薬剤師 | 薬剤部長 |
| 服部 加奈子 | | 臨床検査技師 | コメディカル部長 |
| 渡辺 明良 | | 事務 | 法人事務局長兼病院事務部長 |
| 佐々木 新一 | | 役員 | 理事長 |
| 堀内 成子 | | 教員 | 学長 |
| 佐藤 剛 | | 役員 | 常務理事 |
| 伊藤 数馬 | | 役員 | 常務理事 |

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 公表の方法：病院のホームページにて公表
（病院紹介＞情報公開＞聖路加国際病院運営規則および学校法人聖路加国際大学稟議書運用細則）

- ・ 規程の主な内容
病院運営規則第8条において、院長の職務を規定している。
 - （1）病院経営方針の立案。
 - （2）病院の経営方針に基づく事業計画の策定と実行の管理。
 - （3）病院各部門の業務計画の承認および実行の管理。
 - （4）病院各部門の予算執行の承認および実行の管理。
 - （5）その他病院運営に関する院長業務。また、稟議書運用細則において、管理者が有する組織・人事等の決裁権限を定めている。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - （1）副院長を4名任命し、経営方針の立案に参画等の職務を担う。
 - （2）経営企画課において、病院運営における課題等に対する企画・立案・改善等に関する業務、病院業績指標に関する業務、その他病院運営に関する業務を行う。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - （1）職能資格制度運用細則・役割等級制度運用細則に基づき、職位に応じた人事考課を行っている。
 - （2）各職種の管理者に対して管理者研修を実施（年1回）
 - （3）学会や外部研修などへの積極的な参加を呼び掛け、出張規程や所属部署の予算に基づき旅費・参加費の補助を行っている。2023年度は、GEヘルスケア・ジャパン（株）が提供するJEP(Japan Executive Program2023)に財務経理マネジャーが参加し、視察先である米国病院の経営層とのディスカッション等で経営改善の具体的なアイデアを得た。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する
監査委員会に関する状況

| | | | | | |
|--|--|---------------|--|--|---------------|
| 監査委員会の設置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： <p>第 1 回委員会（2023 年 8 月 22 日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回委員会での助言・提言に対する当院の対応状況について ・ 理解度確認テストの新運用 ・ 医療看護安全管理情報の発信 <p>第 2 回委員会（2024 年 3 月 22 日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回委員会での助言・提言に対する当院の対応状況について ・ CVC ステーションの開設 ・ 病院重点目標：患者誤認に関するインシデント報告 前年度比 50%減 <ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ 公表の方法：病院ホームページで公表（病院紹介>QI センター>医療安全監査委員会） | | | | | |
| 監査委員会の委員名簿及び選定理由（注） | | | | | |
| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 選定理由 | 利害関係 | 委員の要件 該当状況 |
| 相馬孝博 | 千葉大学医学部 附属病院 医療安全担当副 病院長 医療安全管理部 部長 | ○ | 千葉大学医学部附 属病院において医 療安全担当副病 院長を務められ、医 療安全に関する知 識や実績が豊富な こと。 | 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 1 |
| 滝沢牧子 | 埼玉医科大学 総合医療センタ ー医療安全対策 室/医療安全管 理学 教授 | | 埼玉医科大学 総 合医療センターに おいて医療安全対 策室/医療安全管 理学 教授を務め られ、医療安全全 般に関する知識が | 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 1 |

| | | | | | |
|-------|-----------------------------|--|---|-------------------------------|---|
| | | | 豊富であること。 | | |
| 豊田郁子 | 患者・家族と医療をつなぐ NPO 法人 架け橋 理事長 | | 長年にわたって医療者と患者・家族間の信頼関係の構築を目的とした活動を行っており、医療を受ける者の代表として適任であること。 | 有・ <input type="checkbox"/> 無 | 2 |
| 中島勸 | 虎の門病院 医療安全部 部長 | | 虎の門病院において医療安全部 部長を務められ、医療安全に関する知識や実績が豊富であること。 | 有・ <input type="checkbox"/> 無 | 1 |
| 渡邊俊太郎 | 翼 法律事務所 弁護士 | | 関連法務から企業法務まで幅広い分野で活躍され、医療事故調査委員としての実績も十分なこと。 | 有・ <input type="checkbox"/> 無 | 1 |

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が
法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

専門部署として内部統制・監査室を設置。そのほか、理事会および常任理事会（監事が出席）も同様の役割を担っている。

活動状況

- ・年度監査計画に基づく通常監査
- ・公益通報等があった場合等必要に応じて理事長の命により実施する特命監査

・ 専門部署の設置の有無（ ・ 無 ）

・ 内部規程の整備の有無（ ・ 無 ）

・ 内部規程の公表の有無（ ・ 無 ）

・ 公表の方法：病院ホームページにて公表

（病院紹介＞情報公開＞「学校法人聖路加国際大学内部監査細則」、「学校法人聖路加国際大学寄付行為」、「学校法人聖路加国際大学寄付行為施行規則」および「学校法人聖路加国際大学常任理事会規程」）

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による
業務の監督に係る体制の整備に係る措置

| | | | |
|--|----|---------------|------|
| 開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 学校法人聖路加国際大学寄附行為に基づき、理事会が病院の管理運営状況を監督している。 ・ 会議体の実施状況（年 5 回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="checkbox"/>・無）（年 5 回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ 公表の方法：病院ホームページにて公表 （病院紹介＞情報公開＞「学校法人聖路加国際大学寄附行為」「学校法人聖路加国際大学寄附行為施行規則」） | | | |
| 病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：理事会 | | | |
| 会議体の委員名簿 | | | |
| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 利害関係 |
| | | | 有・無 |

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に
疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 通報件数 (年3件)
- ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (有 ・ 無)
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (有 ・ 無)
- ・ 周知の方法
病院管理協議会でのアナウンス、院内メール、ポケットマニュアルに掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

| | |
|--|---|
| ① 果たしている役割に関する情報発信の有無 | <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 |
| <p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>病院ホームページにおいて発信 キリスト教精神に基づき、先端的な教育・研究に支えられた「質の高い安全な医療」を実践する高度急性期病院でありながら、緩和医療や外来診療が中心となる分野まで広くカバーする総合病院の在り方を追求し、患者さんと社会から信頼される医療を提供する。</p> | |

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

| | |
|---|---|
| ① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無 | <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 |
| <p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>疾患ごとに診療科横断的な治療を目的とし、下記の通り複数の診療科・多職種から構成されるセンター化を推し進めている。 小児総合医療センター、救命救急センター、プレストセンター、腎センター、リウマチ膠原病センター、周術期センター、認知症疾患医療センター、ヘルニアセンター、生殖医療センター、AYAサバイバーシップセンター、スポーツ総合医療センター、がんゲノムセンター、ロボット手術センター、オンコロジーセンター、リハビリセンター、遺伝診療センター、呼吸器センター、消化器センター、心血管センター、脳・神経センター、リエゾンセンター</p> | |